

令和5年度 事業報告書

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)



学校法人 順天堂

順天堂大学 5キャンパス6附属病院群

- ① 本郷・お茶の水キャンパス
大学・大学院・法人本部
医学部
国際教養学部
保健医療学部
大学院（4研究科）
順天堂医院
(医院の名を継承しています)



- ⑥ 練馬病院



- ④ 順天堂越谷病院



- ③ 浦安病院



- ⑤ 順天堂東京江東高齢者医療センター



- ② 静岡病院



- ④ 三島キャンパス
保健看護学部
医療看護学
研究科



- ③ 浦安キャンパス
医療看護学部
医療看護学研究科



- ⑤ 浦安・日の出キャンパス
医療科学部
健康データサイエンス学部
薬学部
医療看護学研究科



- ② さくらキャンパス
スポーツ健康科学部
スポーツ健康科学研究科



<https://www.juntendo.ac.jp/>



順天堂の「順天」は、中国の古典『易経』にある「順天応人」（天の意志に順い、人々の期待に応える）と、孟子の言葉の「順天者存。逆天者亡」（自然の摂理に順うものは存続して栄え、天の理法に逆らうものは亡びる）に由来します。



A 法人章



B 法人章

「意匠登録」：1996（平成8）年

A法人章： 仁義礼智信…の“仁”をデザイン化したとされ、明治初期の順天堂医院診察券や薬袋、佐藤尚中の肖像や医専の校章に使用されています。

B法人章： 佐藤の“サ”又はA 法人章を大学の“大”へデザイン化したとされています。＜1957（昭和32）年制定＞



平成21年6月に制定された「ロゴマーク」は、本学の式典旗、発行する印刷物、ホームページ、文具類等の物品、本学公認の学生サークルの団旗等に使用されます。



2024年 順天堂創立186周年

開塾：1838年（天保9年）



順天堂の沿革



順天堂は、江戸後期の天保 9 (1838) 年、今から 186 年前に学祖・佐藤泰然が江戸・薬研堀に設立したオランダ医学塾（和田塾）に端を発し、いまに繋がる日本最古の西洋医学塾です。

幕末、攘夷・洋学排斥の動きもあり、江戸より下総国佐倉に移った順天堂には、全国各地より百数十名を超える俊英が参集し、「日新の医学、佐倉の林中より生ず」と今に語り継がれるが如き、西洋医学研究・教育、そして臨床医学実践の場となりました。

順天堂第二代堂主・佐藤尚中は、明治 2 (1869) 年、明治新政府の要請を受け、佐倉より多数の門下生を率いて上京し、宮内省「大典医」（明治天皇の主治医団長）・文部省「大学大博士」第一号を拝命し、大学東校（現 東京大学医学部の前身）の初代校長として近代医学教育確立に尽力し、西洋医学教育最高学府（東京帝国大学医学部）の礎を固めました。順天堂堂主に帰任した佐藤尚中は佐藤進らと順天堂醫事研究会を設立し、順天堂医院と醫事研究会を基盤に医師の育成を発展させました。順天堂に学んだ者は医師開業試験を免除されました。済生学舎、済衆舎、博愛舎を始めとする多くの医学校の設立を助け、その学生及び卒業生（野口英世ら）は順天堂で臨床教育を受けました。これら医学校を母体として、その後日本医科大学、東京医科大学、東京女子医科大学など多くの大学が誕生していきます。

佐藤進は、明治 2 (1869) 年、明治新政府発行の旅券第一号をもってドイツに留学し、明治 7 (1874) 年、アジア人として最初のベルリン大学医学部卒業生、そして医学博士となりました。ドイツより帰国した佐藤進は、佐藤尚中と共に医師育成を続け、明治 8 (1875) 年 10 月に日本初の医学雑誌『順天堂醫事雑誌（現在は欧文誌、Juntendo Medical Journal: JMJ として）』を発刊し、近代医学情報を日本全国に発信しました。第三代堂主となった佐藤進は、順天堂医院長在任中に陸軍本病院長や日清・日露両戦役の陸軍軍医総監など国家枢要の職を兼任して国難に対峙しました。明治 18 (1885) 年、順天堂医院長在任中に、東京大学医学部附属第一医院及び第二医院の初代院長、また大韓医院（現ソウル大学医学部）を設立し、初代院長・医学部長をも兼任するなど、日本そしてアジアにおける西洋医学教育普及のリーダーとなりました。

第四代堂主（初代理事長）・佐藤達次郎は、順天堂醫事研究会を母体に医学専門学校を開設し、順天堂医科大学へと発展させ、昭和 26 (1951) 年、体育学部（現在のスポーツ健康科学部）を東俊郎を初代学部長として併設し順天堂大学と致しました。順天堂の院

長を続けつつ東京医科大学創立に尽力し、初代学長、次いで理事長として、その発展を支えました。

第五代堂主(理事長)・有山登は、大学・病院の施設設備を拡充・整備させ、昭和34(1959)年、大学院医学研究科・博士課程を開設し、昭和46(1971)年、大学院体育学研究科・修士課程(現在の大学院スポーツ健康科学研究科・博士前期課程)を開設しました。更に、昭和42(1967)年、順天堂第2番目の医学部附属病院として「順天堂大学医学部附属伊豆長岡病院(94床)(現在の静岡病院)」を開院し、順天堂大学の地方への更なる発展を進めました。

第六代堂主(理事長)・東健彦は、昭和59(1984)年、順天堂第3番目の医学部附属病院として「順天堂大学医学部附属浦安病院(250床)」を開院しました。昭和61(1986)年、厳しい運営事情の中、順天堂創立150周年記念事業として、①医学部附属順天堂医院本館(新1号館)の建設、②体育学部新キャンパス移転、③順天堂高等看護専門学校を改組し、医療短期大学を設立し、本郷より浦安市への移転を計画しました。

第七代堂主(理事長)・懸田克躬は、昭和63(1988)年、体育学部を習志野キャンパスからさくらキャンパス(現在の印西市)へ移転し、平成元(1989)年、順天堂医療短期大学を浦安キャンパスに開学しました。更に、財団法人順天堂精神医学研究所附属順天堂越谷病院を順天堂第4番目の医学部附属病院として「順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院(221床)」に改組しました。

第八代堂主(理事長)・石井昌三は、平成5(1993)年、体育学部をスポーツ健康科学部へと改組しました。そして順天堂医院本館(1号館)を完成させ、これにより順天堂創立150周年記念事業が完結されました。この間、静岡病院の拡張・増床など、医学部附属病院群としての地域医療機能充実に努めました。

順天堂の看護師養成の歴史も古く、明治29(1896)年、佐藤進は杉本かね[本邦初の看護取締(総婦長)]を登用し、看護婦養成所を開設し、歴代堂主・理事長は講習所、看護学院、准看護婦学院、医学部附属高等看護婦学校、高等看護学校、看護専門学校、医療短期大学(3年制)へと組織体制の転換を進めつつ看護教育を発展させてきました。

そして、**第九代堂主(理事長)・小川秀興**は、平成12(2000)年、学長就任を機として、当時の石井理事長の了承を得て、大学運営の抜本的改革を果すべく、全職域横断的“学長室委員会(現大学運営連絡協議会：運連協)”を設立し、“大学改革20のプロジェクト”を掲げ、次々と斬新的改革を提案・説明・実行していきました。平成16(2004)年、理事長就任後、この委員会はプロジェクトをその時代と状況に応じて変えつつ、大学運営連絡協議会と名前を改め、現在も継続しております。その結果として、

- 1.平成12(2000)年、大学院スポーツ健康科学研究科・博士課程が開設されました。
- 2.平成16(2004)年、医療短期大学(3年制)を廃し、順天堂大学第3の学部として4年制の医療看護学部(千葉県浦安市)が開設、拡充されました。

- 3.平成 14 (2002) 年 6 月、東京都江東高齢者医療センターが開院し、平成 16 (2004) 年 4 月より東京都から順天堂に運営移管され、順天堂第 5 番目の医学部附属病院「順天堂東京江東高齢者医療センター」となりました。
- 4.平成 19 (2007) 年、大学院医療看護学研究科・修士課程が開設され、平成 26 (2014) 年には博士後期課程が開設されました。
- 5.平成 22 (2010) 年、第 4 の学部として保健看護学部 (静岡県三島市) が開設されました。
- 6.平成 25 (2013) 年には、海外からの留学生や国内の医学士以外の研究者の為に大学院医学研究科・修士課程が開設されました。
- 7.練馬区における病院誘致計画を進め、多数の応募医療機関の中から病院運営者として選定され、平成 17 (2005) 年、順天堂第 6 番目の医学部附属病院「練馬病院」が開院されました。
- 8.大学内に文部科学省 (文部省) などの認可・助成を受け、最先端の教育研究基盤として、以下のセンター・研究所が設立されました。
 - ①アトピー疾患研究センター (平成 10 (1998) 年)、②疾患モデル研究センター (平成 11 (1999) 年)、③老人性疾患病態・治療研究センター (平成 12 (2000) 年)、④環境医学研究所 (平成 14 (2002) 年)、⑤感染制御科学研究センター (平成 15 (2003) 年)、⑥スポーツ健康医科学研究所 (平成 17 (2005) 年)、⑦スポーツロジックセンター (平成 19 (2007) 年)、⑧国際交流センター (平成 20 (2008) 年)、⑨ゲノム・再生医療センター (平成 25 (2013) 年)、⑩先導的がん医療開発研究センター (平成 25 (2013) 年)、⑪女性スポーツ研究センター (平成 26 (2014) 年)、⑫静岡災害医学研究センター (平成 27 (2015) 年)、⑬難病の診断と治療研究センター (平成 28 (2016) 年)、⑭革新的医療技術開発研究センター (オープンイノベーション「GAUDI」) (平成 29 (2017) 年)、⑮順天堂かゆみ研究センター (令和元 (2019) 年)、⑯ジェロントロジー研究センター (令和 3 (2021) 年)、⑰脳血管内治療学研究センター (令和 3 (2021) 年)、⑱AI インキュベーションファーム (令和 3 (2021) 年)、⑲シミュレーション教育研究センター (令和 4 (2022) 年)、⑳健康創薬先端リサーチセンター (令和 5 (2023) 年)
- 9.平成 17 (2005) 年度から開設した寄付講座、平成 28 (2016) 年度から開設した共同研究講座及び令和 3 (2021) 年度から開設した産学協同研究講座は年々増加し、令和 5 (2023) 年度には共同研究講座 46 件、寄付講座 12 件、産学協同研究講座 4 件の計 62 講座が設置されています。
- 10.平成 27 (2015) 年、第 5 の学部として国際教養学部が開設され、国際総合大学・大学院大学としての基盤を固めました。
- 11.平成 31 (2019) 年、第 6 の学部となる保健医療学部理学療法学科・診療放射線学科が開設されました。
- 12.令和 4 (2022) 年、千葉県浦安市日の出地区の校地に「浦安・日の出キャンパス」が開設され、第 7 の学部となる医療科学部臨床検査学科・臨床工学科が開設されまし

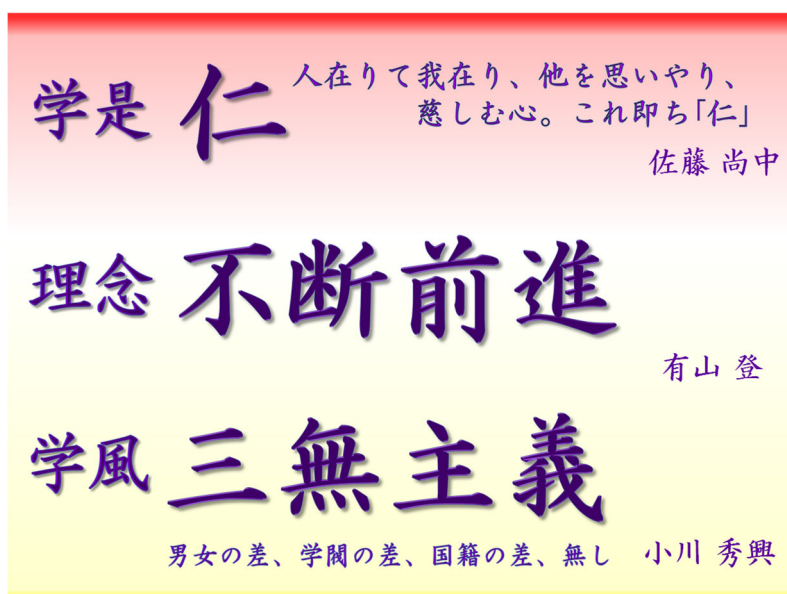
た。

13. 令和 5 (2023) 年、浦安・日の出キャンパスに第 8 の学部として健康データサイエンス学部が開設され、第 4 の大学院研究科として保健医療学部を基礎として大学院保健医療学研究科が開設されました。

14. 令和 6 (2024) 年、浦安・日の出キャンパスに第 9 の学部として薬学部が開設されました。また、第 5 の大学院研究科として大学院国際教養学研究科が開設され、第 6 の大学院研究科として健康データサイエンス研究科（仮称）の設置が計画されています。

順天堂は、附属 6 病院合計で総病床数 3,589 床を有し、日本最大規模の強固なネットワークを形成しています。国民の医療ニーズに幅広く対応する高い専門性を発揮し、総合力に秀でた医育機関として発展するとともに、令和元 (2019) 年 7 月に外国人患者の急増に対応して国際診療部を設置するなど国際レベルでの病診・病病連携を強めております。

現在、国際連携大学・研究所としては、北京大学、第四軍医大学 (西安)、中国医科大学、中日友好医院 (北京)、タイ国立皮膚病研究所 (バンコク)、ベトナム軍医大学、メイヨークリニック、MD アンダーソンがんセンター、シャリテ医科 (ベルリン) 大学などがあり、国際交流協定校も約 83 校に達し、海外からの留学生・研究生は増え続けています。



本学は「不断前進」の理念のもとに学是「仁」を大切にしながら、出身校、国籍、性別の差別のない“三無主義”を学風として掲げ、9 学部 5 研究科 6 附属病院からなる「健康総合大学・大学院大学」として教育・研究・医療そしてリベラル・アーツを通じて国際レベルでの社会貢献と人材育成を進めております。

2024 年 5 月 15 日 (創立記念日)

学校法人 順 天 堂

理事長 小 川 秀 興

1. 法人の設置する学校

研究科・学部名称			所在地	沿革
大学院	医学研究科	修士課程	東京都文京区本郷2丁目1番1号	平成24. 11. 大学院医学研究科（修士課程）設置認可。 平成25. 4. 同 開設。
		博士課程		昭和34. 3. 大学院医学研究科（博士課程）設置認可。 昭和34. 4. 同 開設。
	スポーツ健康科学研究科	博士前期課程	千葉県印西市平賀学園台1丁目1番地	昭和46. 3. 大学院体育学研究科（修士課程）設置認可。 昭和46. 4. 同 開設。 平成 9. 4. 大学院スポーツ健康科学研究科博士前期課程に改称。
		博士後期課程		平成11. 12. 大学院スポーツ健康科学研究科博士後期課程設置認可。 平成12. 4. 同 開設。
	医療看護学研究科	博士前期課程	千葉県浦安市高洲2丁目5番1号	平成18. 11. 大学院医療看護学研究科（修士課程）設置認可。 平成19. 4. 同 開設。 平成26. 4. 同 修士課程を博士前期課程に名称変更。
		博士後期課程		平成25. 10. 大学院医療看護学研究科（博士後期課程）設置認可。 平成26. 4. 同 開設。
	保健医療学研究科	修士課程	東京都文京区本郷2丁目1番1号	令和 4. 8. 大学院保健医療学研究科（修士課程）設置認可。 令和 5. 4. 同 開設。
学部	医学部 医学科		東京都文京区本郷2丁目1番1号	天保9年（1838年）西洋医学塾開塾。以降、江戸（薬研堀）から佐倉（千葉）、東京下谷練堀町、本郷湯島の順天堂醫院にて多くの西洋医学者を育成。 昭和18. 12. （財）順天堂医学専門学校設立認可。 昭和21. 5. （財）順天堂医科大学設置認可。 昭和26. 2. （学）順天堂医科大学認可。 昭和26. 6. 順天堂大学体育学部Ⅱ類（医学進学コース）開設。 昭和27. 2. 新制順天堂大学医学部設置認可。 昭和27. 4. 順天堂大学医学部開設。
	スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科 スポーツ科学科※ スポーツマネジメント学科※ 健康学科※		千葉県印西市平賀学園台1丁目1番地	昭和26. 6. 体育学部Ⅰ類（体育学専攻、健康教育学専攻）開設。 昭和46. 1. 体育学部（体育学科、健康学科）設置認可。 平成 4. 12. スポーツ健康科学部設置認可。 平成 5. 4. 体育学部をスポーツ健康科学部へ改組。スポーツ科学科、スポーツマネジメント学科、健康学科設置。 令和 2. 4. スポーツ健康科学科設置届出。 令和 3. 4. スポーツ健康科学科開設。※スポーツ科学科、スポーツマネジメント学科、健康科学学生募集停止
				（看護教育沿革） 明治29. 10. 順天堂医院看護婦養成所開設。 昭和29. 4. 順天堂大学医学部附属順天堂看護婦学院設置。 昭和36. 3. 同高等看護婦学校開設。 昭和38. 4. 順天堂高等看護学校へ改組。 昭和51. 11. 順天堂看護専門学校へ名称変更。
	医療看護学部 看護学科		千葉県浦安市高洲2丁目5番1号	平成元. 4. 順天堂医療短期大学開設。 平成15. 11. 医療看護学部設置認可。 平成16. 4. 順天堂医療短期大学を順天堂大学医療看護学部へ改組。 平成19. 6. 同短期大学廃止。
	保健看護学部 看護学科		静岡県三島市大宮町3丁目7番33号	平成21. 6. 保健看護学部設置届出。 平成21. 9. 学部設置に伴う収容定員関係学則変更認可。 平成21. 10. 保健師看護師学校指定。 平成22. 4. 保健看護学部開設。
	国際教養学部 国際教養学科		東京都文京区本郷2丁目1番1号	平成26. 12. 国際教養学部設置認可。 平成27. 4. 同 開設。
	保健医療学部 理学療法学科 診療放射線学科		東京都文京区本郷2丁目1番1号	平成30. 8. 保健医療学部理学療法学科・診療放射線学科設置認可。 平成31. 4. 同 開設。
	医療科学部 臨床検査学科 臨床工学科		千葉県浦安市日の出6丁目8番1号	令和 3. 4. 医療科学部臨床検査学科・臨床工学科設置届出。 令和 3. 6. 学部設置に伴う収容定員関係学則変更認可。 令和 4. 4. 同 開設。
	健康データサイエンス学部 健康データサイエンス学科		千葉県浦安市日の出6丁目8番1号	令和 4. 8. 健康データサイエンス学部設置認可。 令和 5. 4. 同 開設。

2. 研究科・学部一覧

研究科・学部・学科名称		取得学位	研究科長・学部長・学科長
大学院	医学研究科	修士（医科学） 博士（医学）	服 部 信 孝
	スポーツ健康科学研究科	修士（スポーツ健康科学） 博士（ ）	和 氣 秀 文
	医療看護学研究科	修士（看護学） 博士（ ）	平 井 周
	保健医療学研究科	修士（理学療法学） 修士（診療放射線学）	代 田 浩 之
学部	医学部 医学科	学士（医学）	服 部 信 孝
	スポーツ健康科学部	学士（学位名は下記のとおり）	和 氣 秀 文
	スポーツ健康科学科	学士（スポーツ健康科学）	—
	スポーツ科学科※	学士（スポーツ科学）	中 村 充
	スポーツマネジメント学科※	学士（スポーツマネジメント学）	廣 津 信 義
	健康学科※	学士（健康学）	久保原 禅
	医療看護学部 看護学科	学士（看護学）	平 井 周
	保健看護学部 看護学科	学士（看護学）	小 池 道 明
	国際教養学部 国際教養学科	学士（国際教養学）	加 藤 洋 一
	保健医療学部	学士（学位名は下記のとおり）	京 極 伸 介
	理学療法学科	学士（理学療法学）	藤 原 俊 之
	診療放射線学科	学士（放射線技術学）	坂 野 康 昌
	医療科学部	学士（学位名は下記のとおり）	長 岡 功
	臨床検査学科	学士（臨床検査学）	三 宅 一 徳
	臨床工学科	学士（臨床工学）	峰 島 三千男
	健康データサイエンス学部 健康データサイエンス学科	学士（健康データサイエンス学）	青 木 茂 樹

※スポーツ科学科、スポーツマネジメント学科、健康学科は令和3年4月学生募集停止

3. 大学院附属研究センター及び大学附属研究センター

研究センター名称	センター長	開設時の文部科学省補助事業	開設年月日	初代センター長
アトピー疾患研究センター	奥村 康	学術フロンティア推進事業	平成 10. 11. 19	小川 秀興
疾患モデル研究センター	服部 信孝	学術フロンティア推進事業	平成 11. 4. 1	小川 秀興
老人性疾患病態・治療研究センター	内山 安男	ハitek・リサーチ・センター整備事業	平成 12. 3. 21	水野 美邦
環境医学研究所	高森 建二	ハitek・リサーチ・センター整備事業	平成 14. 9. 19	小川 秀興
研究基盤センター	服部 信孝	—	平成 15. 10. 1	木南 英紀
スポーツ健康医科学研究所	内藤 久士	ハitek・リサーチ・センター整備事業	平成 17. 10. 1	小川 秀興
スポーツロジックセンター	河盛 隆造	ハitek・リサーチ・センター整備事業	平成 19. 4. 24	小川 秀興
ゲノム・再生医療センター	新井 一	戦略的研究基盤形成支援事業	平成 25. 10. 1	新井 一
先導的がん医療開発研究センター	服部 信孝	研究拠点形成費等補助金	平成 25. 11. 1	新井 一
女性スポーツ研究センター	小笠原悦子	戦略的研究基盤形成支援事業	平成 26. 8. 1	小笠原悦子
静岡災害医学研究センター	佐藤 浩一	戦略的研究基盤形成支援事業	平成 27. 10. 1	佐藤 浩一
難病の診断と治療研究センター	岡崎 康司	—	平成 28. 4. 1	新井 一
脳血管内治療学研究センター	近藤 聡英	—	令和 3. 6. 1	大石 英則
A I インキュベーションファーム	服部 信孝	—	令和 3. 12. 1	服部 信孝
シミュレーション教育研究センター	植木 純	—	令和 4. 4. 1	植木 純
健康創薬先端リサーチセンター	服部 信孝	—	令和 5. 10. 1	服部 信孝

4. 医学部附属病院

病院名称	開設年月日	病床数	所在地
順天堂医院	明治 6. 2. 2	1,051 床	東京都文京区本郷 3 丁目 1 番 3 号
静岡病院	昭和 42. 4. 1	633 床	静岡県伊豆の国市長岡 1129 番地
浦安病院	昭和 59. 5. 15	785 床	千葉県浦安市富岡 2 丁目 1 番 1 号
順天堂越谷病院	平成 元. 4. 1	226 床	埼玉県越谷市袋山 560 番地
順天堂東京江東高齢者医療センター	平成 14. 6. 3	404 床	東京都江東区新砂 3 丁目 3 番 20 号
練馬病院	平成 17. 7. 1	490 床	東京都練馬区高野台 3 丁目 1 番 10 号
合 計		3,589 床	

※病床数は令和 6 年 3 月 31 日現在の稼働数

5. 法人の設置する大学院・大学の入学定員、学生数等

研究科・学部・学科名称			修業 年限	入学 定員	入学 者※1	収容 定員	在籍者※2・3						
							1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	5 年次	6 年次	
大学院	医学研究科	修士課程	2 年	60	89	120	183	87 (60)	96 (60)	-	-	-	-
		博士課程	4 年	180	203	720	722	198 (180)	201 (180)	173 (180)	150 (180)	-	-
	スポーツ健康 科学研究科	博士前期課程	2 年	61	62	122	129	61 (61)	68 (61)	-	-	-	-
		博士後期課程	3 年	10	11	30	39	11 (10)	11 (10)	17 (10)	-	-	-
	医療看護学 研究科	博士前期課程	2 年	29	33	58	65	33 (29)	32 (29)	-	-	-	-
		博士後期課程	3 年	12	12	34	37	12 (12)	8 (12)	17 (10)	-	-	-
	保健医療学 研究科	修士課程	2 年	10	28	10	28	28 (10)	-	-	-	-	-
大学院 計				362	438	1,094	1,203	430 (362)	416 (352)	207 (200)	150 (180)	-	-
学部	医学部 医学科		6 年	140	140	829	830	144 (140)	137 (138)	133 (136)	136 (135)	138 (140)	142 (140)
	スポーツ健康科学部		4 年	600	621	2,210	2,244	619 (600)	612 (600)	597 (600)	416 (410)	-	-
	スポーツ健康科学科		4 年	600	621	1,800	1,828	619 (600)	612 (600)	597 (600)	-	-	-
	スポーツ科学科※4		4 年	—	—	250	253	-	-	-	253 (250)	-	-
	スポーツマネジメント学科※4		4 年	—	—	80	81	-	-	-	81 (80)	-	-
	健康学科※4		4 年	—	—	80	82	-	-	-	82 (80)	-	-
	医療看護学部 看護学科		4 年	220	221	840	831	221 (220)	208 (220)	201 (200)	201 (200)	-	-
	保健看護学部 看護学科		4 年	130	132	500	507	134 (130)	131 (130)	120 (120)	122 (120)	-	-
	国際教養学部 国際教養学科		4 年	240	228	960	913	237 (240)	222 (240)	229 (240)	225 (240)	-	-
	保健医療学部		4 年	240	242	960	956	245 (240)	237 (240)	239 (240)	235 (240)	-	-
	理学療法学科		4 年	120	121	480	478	124 (120)	117 (120)	120 (120)	117 (120)	-	-
	診療放射線学科		4 年	120	121	480	478	121 (120)	120 (120)	119 (120)	118 (120)	-	-
	医療科学部		4 年	180	182	360	365	184 (180)	181 (180)	-	-	-	-
	臨床検査学科		4 年	110	112	220	224	113 (110)	111 (110)	-	-	-	-
	臨床工学科		4 年	70	71	140	141	71 (70)	70 (70)	-	-	-	-
	健康データサイエンス学部 健康データサイエンス学科		4 年	100	101	100	101	101 (100)	-	-	-	-	-
学部 計				1,850	1,867	6,759	6,747	1,885 (1,850)	1,728 (1,748)	1,519 (1,536)	1,335 (1,345)	138 (140)	142 (140)

※1 入学者欄は令和5年4月に入学した学生数、※2 在籍者欄は令和6年3月31日における学生数、※3 在籍者欄下段は、該当年次入学時の入学定員数、※4 スポーツ科学科、スポーツマネジメント学科、健康学科は令和3年4月学生募集停止

6. 役員

区 分	氏 名	主 な 役 職
理事長	小 川 秀 興	
理 事	新 井 一	学長
	木 南 英 紀	学長特別補佐
	服 部 信 孝	医学部長、大学院医学研究科長
	和 氣 秀 文	スポーツ健康科学部長、大学院スポーツ健康科学研究科長
	平 井 周	医療看護学部長、大学院医療看護学研究科長
	小 池 道 明	保健看護学部長
	加 藤 洋 一	国際教養学部長
	京 極 伸 介	保健医療学部長
	長 岡 功	医療科学部長
	青 木 茂 樹	健康データサイエンス学部長
	高 橋 和 久	順天堂医院長
	佐 藤 浩 一	静岡病院長
	田 中 裕	浦安病院長
	鈴 木 利 人	順天堂越谷病院長
	宮 嶋 雅 一	順天堂東京江東高齢者医療センター院長
	浦 尾 正 彦	練馬病院長
	宮 野 武	練馬病院名誉院長
	高 森 建 二	大学院医学研究科環境医学研究所長
	佐 藤 信 紘	大学院医学研究科特任教授
	天 野 篤	大学院医学研究科特任教授
	内 藤 久 士	大学院スポーツ健康科学研究科スポーツ健康医科学研究所長
	代 田 浩 之	大学院保健医療学研究科長
	植 木 純	大学院医療看護学研究科シミュレーション教育研究センター長
	多 田 宏	非常勤
	永 田 良 一	非常勤
監 事	辛 島 睦	非常勤
	濱 本 英 輔	非常勤

7. 評議員

<選任条項順に記載>

浦尾 正彦	田中 裕	岩渕 和久	桑鶴 良平	坂本 一博	山路 健	清水 俊明
青木 和浩	鈴木 大地	吉村 雅文	コシバ フランソワ	細谷 芳三	小林 忠彦	田中ひとみ
佐藤 潔	長岡 功	高森 建二	代田 浩之	中澤 真逸	澤木 啓祐	土屋 清子
宮川 政久	加納 實	植木 純	児島 邦明	小川 秀興	新井 一	服部 信孝
和氣 秀文	平井 周	小池 道明	加藤 洋一	高橋 和久	佐藤 浩一	多田 宏
佐藤 信紘	木南 英紀	宮野 武	鈴木 利人	宮嶋 雅一	天野 篤	丸木 親
永田 良一	奥村 康	岡田 隆夫	吉田 幸洋	小林 茂人	内藤 久士	稲富 恵子
青木 茂樹	京極 伸介	村田 善則	岡田 綾			(計 53名)

8. 教職員数

(1) 教員数

(令和6年3月31日現在)

(単位：名)

学長
1

	教授	先任准教授	准教授	講師	助教	助手	常勤計	非常勤	計
大 学 院	246	15	68	4	48	4	385	305	690
(内訳)									
医学研究科	213	12	66	4	44	4	343	213	556
スポーツ健康科学研究科	20	2	1	0	4	0	27	13	40
医療看護学研究科	13	1	1	0	0	0	15	79	94
保健医療学研究科	0	0	0	0	0	0	0	3	3
学 部	67	142	370	29	452	458	1,518	3,008	4,526
(内訳)									
医 学 部	8	101	298	5	378	452	1,242	2,615	3,857
スポーツ健康科学部	5	15	26	1	20	4	71	102	173
医療看護学部	1	7	16	2	27	0	53	80	133
保健看護学部	12	5	6	7	5	2	37	58	95
国際教養学部	11	7	10	3	4	0	35	92	127
保健医療学部	14	5	8	5	9	0	41	27	68
医 療 科 学 部	11	2	3	5	6	0	27	24	51
健康データサイエンス学部	5	0	3	1	3	0	12	10	22
法人・総務局	5	0	1	0	0	0	6	3	9
合 計	318	157	439	33	500	462	1,903	3,316	5,225

※上記内、併任教員数

教員数合計(本務・併任合計)

	教授	准教授	講師	助教	計
大学院本務教員 内学部併任教員	182	51	0	26	259
学部本務教員内 大学院併任教員	17	421	9	40	487

	教員数
大学院	1,180
学 部	4,785

(2) 職員数

事務職	技術職	医療職	教務職	その他	計
864	19	5,113	36	57	6,089

教職員合計
11,318

<参考：令和5年度臨床研修医受入数（括弧内は令和5年度新規受入数）>

順天堂医院	静岡病院	浦安病院	練馬病院	計
82 (44)	53 (30)	78 (40)	69 (34)	282 (148)

9. 研究費・補助金

(1) 補助金

① 文部科学省・(独) 日本学術振興会：科学研究費助成事業

研究種目名	区分	採択件数 (件)		直接経費 (千円)		間接経費 (千円)	
新学術領域研究 (研究領域提案型)	新規	0	6	0	61,700	0	18,510
	継続	6		61,700		18,510	
基盤研究(S)	新規	1	1	33,600	33,600	10,080	10,080
	継続	—		—		—	
基盤研究(A)	新規	2	9	31,200	90,600	9,360	27,180
	継続	7		59,400		17,820	
基盤研究(B)	新規	26	67	139,100	285,000	41,730	85,500
	継続	41		145,900		43,770	
基盤研究(C)	新規	121	404	176,800	424,450	51,690	125,985
	継続	283		247,650		74,295	
若手研究	新規	75	219	105,600	243,100	31,680	72,930
	継続	144		137,500		41,250	
挑戦的研究(開拓)	新規	0	1	0	7,000	0	2,100
	継続	1		7,000		2,100	
挑戦的研究(萌芽)	新規	8	12	15,100	20,200	4,530	6,060
	継続	4		5,100		1,530	
研究活動スタート支援	新規	12	33	13,100	35,900	3,930	10,770
	継続	21		22,800		6,840	
国際共同研究強化	新規	5	5	58,000	58,000	17,400	17,400
	継続	—		—		—	
海外連携研究	新規	2	6	6,500	17,600	1,950	5,280
	継続	4		11,100		3,330	
国際先導	新規	1	1	39,800	39,800	11,940	11,940
	継続	—		—		—	
特別研究員奨励費	新規	6	12	6,200	10,900	660	1,170
	継続	6		4,700		510	
奨励研究	新規	6	6	2,880	2,880	0	0
	継続	—		—		—	
合 計	新規	265	782	627,880	1,330,730	184,950	394,905
	継続	517		702,850		209,955	

② 文部科学省：科学技術人材育成費補助金

事業名	採択件数(件)	決定額(千円)
卓越研究員事業	1	4,000
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(女性リーダー育成型)	1	30,000
合 計	2	34,000

③ 厚生労働省：厚生労働科学研究費補助金、厚生労働行政推進調査事業費補助金

事業名	採択件数(件)	直接経費(千円)	間接経費(千円)
政策科学総合研究事業(臨床研究等 ICT 基盤構築・人工知能実装研究事業)	1	23,077	6,923
厚生労働科学特別研究事業	2	34,120	10,236
難治性疾患政策研究事業	1	23,010	6,903
障害者政策総合研究事業	1	10,424	3,076
エイズ対策政策研究事業	1	9,970	2,990
地域医療基盤開発推進研究事業	2	2,620	785
合 計	8	103,221	30,913

④ 厚生労働省：労災疾病臨床研究事業費補助金

事業名	採択件数(件)	直接経費(千円)	間接経費(千円)
労災疾病臨床研究事業費補助金	1	10,000	3,000
合 計	1	10,000	3,000

⑤ 国立研究開発法人日本医療研究開発機構

事業名	採択件数(件)	直接経費(千円)	間接経費等(千円)
研究者育成支援研究奨励事業(創薬関連分野)	1	7,000	700
若手研究者によるスタートアップ課題解決支援事業	1	15,000	4,500
官民による若手研究者発掘支援事業	1	10,000	3,000
医療技術実用化総合促進事業	1	159,091	15,909
合 計	4	191,091	24,109

(2) 委託費

① 文部科学省

事業名	採択件数(件)	直接経費(千円)	間接経費(千円)
先端的スポーツ医科学研究推進事業	1	44,392	4,433
合 計	1	44,392	4,433

② 国立研究開発法人日本医療研究開発機構

事業名	採択件数(件)	直接経費(千円)	間接経費等(千円)
次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業	1	40,000	12,000
次世代がん医療加速化研究事業	2	20,000	6,000
再生医療等実用化研究事業	5	214,156	64,247
再生・細胞医療・遺伝子治療実現加速化プログラム	4	195,000	58,500
革新的がん医療実用化研究事業	1	15,000	4,500
障害者対策総合研究開発事業（精神障害分野）	2	20,000	6,000
障害者対策総合研究開発事業（身体・知的・感覚器障害分野）	1	7,000	2,100
脳とこころの研究推進プログラム	2	120,000	36,000
難治性疾患実用化研究事業	3	29,374	8,812
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業	1	12,500	3,750
新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業	1	32,000	9,600
肝炎等克服実用化研究事業 肝炎等克服緊急対策研究事業	1	20,500	6,150
革新的先端研究開発支援事業	6	92,225	27,667
医療機器等研究成果展開事業	1	20,000	6,000
医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業	2	33,930	10,180
創薬支援推進事業	1	5,450	545
予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業	1	23,000	6,900
ゲノム医療実現バイオバンク利活用プログラム	1	19,000	5,700
新興・再興感染症研究基盤創生事業（海外拠点活用研究領域）	1	15,000	4,500
新興・再興感染症研究基盤創生事業（多分野融合研究領域）	1	7,600	2,280
脳とこころの研究推進プログラム（精神・神経疾患メカニズム解明プロジェクト）	2	126,600	37,980
橋渡し研究プログラム	1	14,300	4,290
合 計	41	1,082,635	323,701

③ 国立研究開発法人科学技術振興機構

事業名	採択件数(件)	直接経費(千円)	間接経費(千円)
ムーンショット型研究開発事業	1	63,869	19,161
創発的研究支援事業	6	43,350	13,005
戦略的創造研究推進事業	1	9,660	2,898
研究成果展開事業 共創の場形成支援（共創の場形成支援プログラム）	1	3,846	1,154
大学発新産業創出基金事業(基金)	1	27,070	8,121
合 計	10	147,795	44,339

④ 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所

事業名	採択件数(件)	直接経費(千円)	間接経費(千円)
希少疾病用再生医療品等開発支援事業	1	15,044	2,256
戦略的イノベーション創造プログラム包摂的コミュニティプラットフォームの構築	1	128,696	19,304
合 計	2	143,740	21,560

⑤ 独立行政法人国際協力機構

事業名	採択件数(件)	直接経費(千円)	間接経費(千円)
地球規模課題対応国際科学技術協力（SATREPS） 第1期（2022年6月15日～2024年6月30日）	1	189,934	0
合 計	1	189,934	0

10. 寄付講座・共同研究講座・産学協同研究講座

(1) 寄付講座

講座名	寄付者	設置期間	責任者等
地域総合診療研究講座 (越谷市)	埼玉県越谷市	H23. 5. 1 ～R 8. 3. 31	医学研究科 研究科長 服部 信孝
運動障害疾患病態研究・ 治療講座	日本メドトロニック株式会社 ポストン・サイエンティフィックジャパン株式会社 (H27. 4. 1～) 帝人ファーマ株式会社 (共同研究) (R3. 4. 1～) アッヴィ合同会社 (H30. 4. 1～R4. 3. 31) (1社非公開) (H30. 4. 1～R6. 3. 31)	H24. 4. 1 ～R 9. 3. 31	神経学 教授 服部 信孝
脳神経血管内治療学講座	テルモ株式会社 日本ストライカー株式会社 株式会社カネカメディックス 日本メドトロニック株式会社 (H30. 8. 1～)	H24. 8. 1 ～R 6. 7. 31	脳神経外科学 教授 近藤 聡英
遺伝子疾患先端情報学講 座	大塚製薬株式会社 株式会社ファンケル (R5. 4. 1～) 第一工業製薬株式会社 (R5. 4. 1～) 株式会社食文化 (R2. 4. 1～) ロート製薬株式会社 (R2. 4. 1～) 第一生命保険株式会社 (R5. 4. 1～)	H26. 4. 1 ～R 8. 3. 31	泌尿器外科学 教授 堀江 重郎
心血管睡眠呼吸医学講座	株式会社フィリップス・ジャパン フクダ電子株式会社 レスメド株式会社	H27. 4. 1 ～R 6. 3. 31	循環器内科学 教授 南野 徹
乳酸菌生体機能研究講座	明治ホールディングス株式会社	H27. 4. 1 ～R 9. 3. 31	免疫学 特任教授 奥村 康
マイクロバイオーム研究 講座	アサヒグループホールディングス株式会社	H30. 3. 1 ～R 6. 2. 29	医学研究科 研究科長 服部 信孝
先進血液病態学講座	ファーマエッセンシアジャパン株式会社	R 3. 3. 1 ～R 9. 2. 29	血液学 主任教授 安藤 美樹
脳疾患連携分野研究講座	イドルシアファーマシューティカルズジャパン株式会社	R 3. 4. 1 ～R 8. 3. 31	脳神経外科学 教授 近藤 聡英
骨関節疾患地域医療・研 究講座	茨城県 神栖市	R 4. 4. 1 ～R 7. 3. 31	整形外科・運動器医学 教授 石島 旨章
ホスピタリスト研究実践 講座	公益財団法人星総合病院	R 4. 4. 1 ～R 7. 3. 31	総合診療科学 教授 内藤 俊夫
機能修復治療学講座	エム・エフコンサルタント株式会社	R 5. 4. 1 ～R 8. 3. 31	リハビリテーション医学研究室 教授 藤原 俊之

(2) 共同研究講座

講座名	共同研究者	設置期間	責任者等
オートファジー調節化合 物探索研究講座	住友ファーマ株式会社	H29. 4. 1 ～R 8. 3. 31	神経学 教授 服部 信孝
認知症診断・予防・治療学 講座	エーザイ株式会社 日本メジフィジックス株式会社	H30. 1. 1 ～R 8. 12. 31	神経学 教授 服部 信孝

講座名	共同研究者	設置期間	責任者等
抗加齢皮膚医学研究講座	株式会社ファンケル総合研究所 キリンホールディングス株式会社 (R3.6.1~)	H30. 6. 1 ~R 5. 5. 31	環境医学研究所 特任教授 高森 建二
データサイエンス推進講座	株式会社 4DIN	H30.12. 1 ~R 6.11. 30	放射線診断学 教 授 桑鶴 良平
オルガノイド開発研究講座	エーザイ株式会社	H31. 4. 1 ~R 7. 3. 31	神経学 教 授 服部 信孝
循環器遠隔管理学講座	パラマウントベッド株式会社	R 1. 5. 1 ~R 7. 4. 30	循環器内科学 教 授 南野 徹
ICT 制御に基づく在宅医療開発講座	株式会社サンウェルズ	R 1.10. 1 ~R 7. 9. 30	神経学 教 授 服部 信孝
先端予防医学・健康情報学講座	株式会社クレディセゾン	R 2. 1. 1 ~R 8. 3. 31	総合診療科学 教 授 内藤 俊夫
パーキンソン病治療薬開発講座	大原薬品工業株式会社 株式会社 PARKINSON Laboratories	R 2. 4. 1 ~R 8. 3. 31	神経学 教 授 服部 信孝
デジタル医療講座	ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 ビジョンケアカンパニー	R 2. 5. 1 ~R 6. 4. 30	AIインキュベーションファーム センター長 服部 信孝
脳機能代謝研究講座	テルモ株式会社 株式会社フィリップス・ジャパン アンファーマ株式会社 株式会社メディカライン 日本メドトロニック株式会社 日本ストライカー株式会社 Integra Japan 株式会社 (1社非公開)	R 2. 5. 1 ~R 5. 4. 30	脳神経外科学 教 授 近藤 聡英
リアルワールドエビデンス評価研究講座	株式会社新日本科学	R 2. 6. 1 ~R 5. 5. 31	放射線診断学 教 授 桑鶴 良平
気分障害分子病態学講座	住友ファーマ株式会社	R 2.10. 1 ~R 8. 9. 30	精神医学 教 授 加藤 忠史
アフェレシス治療技術と生命科学講座	旭化成メディカル株式会社	R 2.10. 1 ~R 8. 9. 30	膠原病・リウマチ内科学 教 授 山路 健
スポーツ医学・再生医療講座	セルソース株式会社	R 2.11. 1 ~R 5.10. 31	整形外科・運動器医学 教 授 石島 旨章
健康寿命学講座	株式会社カーブスジャパン	R 2.11. 1 ~R 5.10. 31	スポーツロジックセンター 特任教授 河盛 隆造
マルチスケール脳構造イメージング講座	株式会社ニコンソリューションズ	R 2.11. 1 ~R 7.10. 31	脳回路形態学 教 授 日置 寛之
高齢者身体運動機能研究開発講座	株式会社ハーフ・センチュリー・モア	R 2.12. 1 ~R 5.11. 30	病院管理学 教 授 小林 弘幸
パーキンソン病臨床データ解析研究講座	小野薬品工業株式会社	R 3. 1. 1 ~R 7.12. 31	神経学 教 授 服部 信孝
骨髄増殖性腫瘍治療薬開発講座	Meiji Seika ファルマ株式会社	R 3. 2. 1 ~R 6. 1. 31	血液学 特任教授 小松 則夫

講座名	共同研究者	設置期間	責任者等
免疫病・がん先端治療学講座	ワイズ・エー・シー株式会社	R 3. 4. 1 ～R11. 3. 31	アトピー疾患研究センター 特任教授 奥村 康
先進老化制御学講座	株式会社ブルボン	R 3. 4. 1 ～R 9. 3. 31	循環器内科学 教 授 南野 徹
シヌクレイノパチー創薬探索研究講座	協和キリン株式会社	R 3. 4. 1 ～R 7. 3. 31	神経学 教 授 服部 信孝
神経疾患における PRO に基づく統合データ解析講座	武田薬品工業株式会社	R 3. 4. 1 ～R 6. 3. 31	神経学 教 授 服部 信孝
免疫診断学講座	日本抗体医薬株式会社	R 3. 4. 1 ～R 9. 3. 31	アトピー疾患研究センター 特任教授 奥村 康
運動器疾患病態学講座	サントリーウエルネス株式会社 日本ストライカー株式会社 株式会社日本エム・ディ・エム 久光製薬株式会社 オリンパステルモバイオマテリアル株式会社 株式会社マティス セルソース株式会社（～R6. 3. 31）	R 3. 4. 1 ～R 6. 3. 31	整形外科・運動器医学 教 授 石島 旨章
Pandemic Ready 共同研究講座	清水建設株式会社	R 3. 5. 1 ～R 6. 4. 30	感染制御科学 教 授 堀 賢
救急 AI 色画像情報標準化講座	凸版印刷株式会社	R 3. 6. 1 ～R 6. 5. 31	救急・災害医学 （浦安病院） 教 授 田中 裕
低侵襲テロメスキャン次世代がん診断学講座	オンコリスバイオフーマ株式会社	R 3. 6. 1 ～R 6. 5. 31	呼吸器内科学 教 授 高橋 和久
デジタル指標運動機能研究講座	田辺三菱製薬株式会社	R 3. 8. 1 ～R 6. 7. 31	神経学 教 授 服部 信孝
ダイレクトリプログラミング再生医療学講座	アステラス製薬株式会社	R 3.10. 1 ～R 6. 9. 30	難治性疾患診断・治療学 教 授 岡崎 康司
デジタルセラピューティクス講座	株式会社ライフクエスト トライバル株式会社	R 3.10. 1 ～R 6. 9. 30	泌尿器外科学 教 授 堀江 重郎
MALDI-TOFMS 実用化研究講座	株式会社島津製作所	R 4. 1. 1 ～R 6.12. 31	臨床病理検査医学 教 授 田部 陽子
次世代病院 IoT ネットワーク共同研究講座	アライドテレシスホールディングス株式会社	R 4. 3. 1 ～R 7. 2. 28	医学研究科 研究科長 服部 信孝
細菌叢再生学講座	メタジェンセラピューティクス株式会社	R 4. 4. 1 ～R 7. 3. 31	消化器内科学 教 授 永原 章仁
メディカル・メタバース共同研究講座	日本アイ・ビー・エム株式会社	R 4. 4. 1 ～R 7. 3. 31	医学研究科 研究科長 服部 信孝
唾液 1ml を用いた認知症バイオマーカー開発講座	（非公開）	R 4. 6. 1 ～R 7. 5. 31	難治性疾患診断・治療学 教 授 赤澤 智宏
生殖技術フロンティア講座	株式会社新日本科学	R 4. 7. 1 ～R 7. 6. 30	産婦人科学 教 授 板倉 敦夫

講座名	共同研究者	設置期間	責任者等
食と生殖機能先端研究講座	株式会社パートナーズ	R 4. 7. 1 ～R 7. 6. 30	産婦人科学 教 授 板倉 敦夫
遠隔医療・モバイルヘルス研究開発講座	株式会社関電工	R 5. 3. 1 ～R 8. 2. 28	AIインキュベーションファーム センター長 服部 信孝
腸内フローラ研究講座	森永乳業株式会社	R 5. 4. 1 ～R 8. 3. 31	特任教授 佐藤 信紘
スポーツ施設・環境研究講座	株式会社大林組	R 5. 4. 1 ～R 8. 3. 31	スポーツ健康科学研究科 研究科長 和氣 秀文
免疫・身体機能と睡眠の科学講座	エヌ・ティ・ティ都市開発株式会社	R 5. 5. 1 ～R 8. 4. 30	膠原病・リウマチ内科学 教 授 山路 健
生物機能成分研究講座	株式会社医道メディカル	R 5. 7. 1 ～R 8. 6. 30	医学研究科 教 授 小林 弘幸
パーソナル・アダプティブ・スマートホスピタル共同研究講座	鹿島建設株式会社	R 5. 7. 1 ～R 8. 6. 30	医学研究科 研究科長 服部 信孝
運動器再生医学研究講座	株式会社 Gaudi Clinical NORM 株式会社 株式会社ベリタス	R 5. 11. 1 ～R 8. 10. 31	整形外科・運動器医学 教 授 石島 旨章

(3) 産学協同研究講座

講座名	産学協同研究者	参画形態	設置期間	責任者等
バイオリソースバンク活用研究支援講座	アボットジャパン合同会社 日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社 三井不動産株式会社	共同研究 寄付 寄付	R 3. 10. 1 ～R 6. 9. 30	呼吸器内科学 教 授 高橋 和久
パーキンソン病病態解明研究講座	大塚製薬株式会社 山岸広太郎 セブラホールディングス株式会社	寄付 寄付 共同研究	R4. 4. 1 ～R 7. 3. 31	神経学 教 授 服部 信孝
デジタルヘルス・遠隔医療研究開発講座	インターリハ株式会社 京セラ株式会社 フクダ電子株式会社 AMI 株式会社 株式会社フィリップス・ジャパン	共同研究 共同研究 共同研究 共同研究 寄付	R 5. 1. 1 ～R 5. 12. 31	保健医療学部 学部長 代田 浩之
認知症治療学講座	PDR ファーマ株式会社 公益財団法人小笠原敏昌記念財団 興和株式會社 株式会社アライブメディケア 医療法人社団悠輝会 (1 者非公開)	共同研究 研究助成 共同研究 共同研究 寄付 寄付	R6. 3. 1 ～R 9. 2. 28	神経学 教 授 服部 信孝

11. 授業料等学生が納付する金額

(単位：円)

大学院・学部			入学金※1	授業料	施設設備費	実験実習費	教育充実費	初年度合計
大学院	医学研究科	博士課程	200,000	400,000	－	150,000	－	750,000
		修士課程	200,000	400,000※2	150,000	－	－	750,000
	スポーツ健康科学研究科		200,000	550,000	－	50,000	－	800,000
	医療看護学研究科		200,000	550,000	－	50,000	－	800,000
	保健医療学研究科		200,000	550,000	50,000	－	－	800,000
学部	医学部	1 年次	2,000,000	700,000	200,000	－	－	2,900,000
		2 年次以降	－	2,000,000	860,000	－	720,000	3,580,000
	スポーツ健康科学部		200,000	700,000	300,000	－	150,000	1,350,000
	医療看護学部		300,000	900,000	300,000	350,000※3	－	1,850,000
	保健看護学部		300,000	900,000	300,000	140,000※4	－	1,640,000
	国際教養学部		300,000	1,000,000	－	－	250,000	1,550,000
	保健医療学部		300,000	1,000,000	300,000	150,000※5	－	1,750,000
	医療科学部		300,000	1,000,000	300,000	150,000※5	－	1,750,000
	健康データサイエンス学部		200,000	1,000,000	300,000	－	100,000	1,600,000

※1 入学時のみ

※2 データサイエンス学位プログラムは 1,050,000 円

※3 4 年次に助産学に関する実習を受講する場合には、実習費として別途 350,000 円を加算

※4 2 年次以降は 420,000 円、

※5 2 年次以降は 480,000 円

12. 学位記授与数

※学位記授与数にて甲は課程修了者、乙は学位論文提出者

大学院医学研究科

(単位:名)

区 分	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	備考《累計》
当該年度修了者の入学時入学定員（博士）	140	140	160	180	
“ 入学者数（ “ ）	160	178	179	162	
博士（医学）甲 学位記授与数	155	158	155	146	《2,878》
満期退学後学位取得者数	0	0	0	0	
博士（医学）乙 学位記授与数	18	28	20	14	《2,548》
当該年度修了者の入学時入学定員（修士）	30	40	60	60	
“ 入学者数（ “ ）	41	64	77	98	
修士（医科学）学位記授与数	40	61	78	94	《439》

大学院スポーツ健康科学研究科

(単位:名)

区 分	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	備考《累計》
当該年度修了者の入学時入学定員（博士）	10	10	10	10	
“ 入学者数（ “ ）	11	21	18	14	
博士（スポーツ健康科学）甲 学位記授与数	8	14	14	11	《126》
満期退学後学位取得者数	0	0	0	0	
博士（スポーツ健康科学）乙 学位記授与数	1	1	0	2	《27》
当該年度修了者の入学時入学定員（修士）	61	61	61	61	
“ 入学者数（ “ ）	56	62	63	67	
修士（スポーツ健康科学）学位記授与数	51	62	60	66	《1,388》

大学院医療看護学研究科

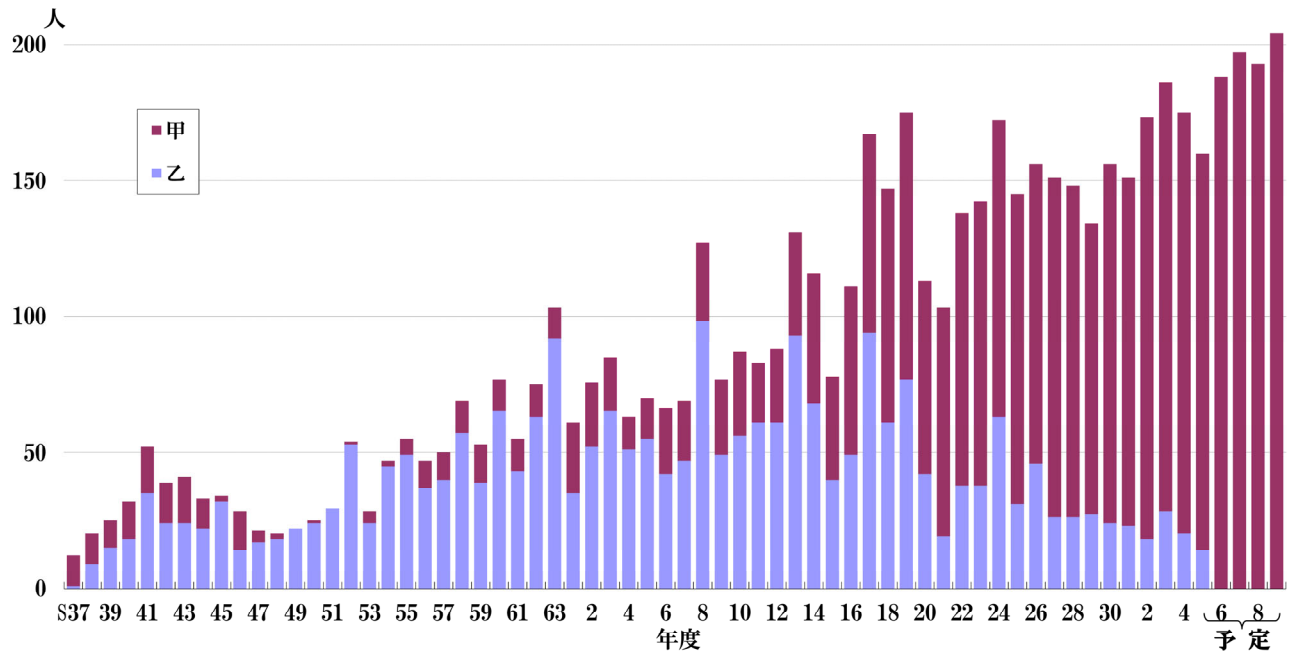
(単位:名)

区 分	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	備考《累計》
当該年度修了者の入学時入学定員（博士）	7	10	10	10	
“ 入学者数（ “ ）	10	11	10	10	
博士（看護学）甲 学位記授与数	7	11	7	6	《56》
当該年度修了者の入学時入学定員（修士）	20	25	25	29	
“ 入学者数（ “ ）	26	24	27	33	
修士（看護学）学位記授与数	25	21	29	29	《307》

令和6年3月

順天堂大学大学院医学研究科 学位授与者数推移

博士（医学） 甲 2,878号 乙 2,548号 （計：5,426号）



◎ 学位論文英文率／平均IF ※1,3

甲論文：英文率99.5％／平均IF ≒ 4.361※2

乙論文：英文率98.7％／平均IF ≒ 3.274

※1 集計期間は令和2年度～令和5年度の学位取得者
 ※2 甲論文の平均IFは学位論文掲載受取者を対象
 ※3 IF値はJournal Citation Reportsにて公表されている
 ジャーナルの平均値を算出

13. 学部卒業生数

(単位：名、括弧内()は女子学生数)

学部・学科名称	取得学位(学士)	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	備考《累計》
医学部 医学科	医学	130 (37)	134 (41)	135 (43)	137 (44)	医専卒 《319》 医科大卒 《89》 学部卒 《5,785》 累計 《6,193》
スポーツ健康科学部		404 (158)	401 (158)	399 (153)	415 (163)	体育学部卒 《5,207》 スポーツ健康科学部卒 《9,207》 累計 《14,414》
スポーツ科学科	スポーツ科学	247 (98)	243 (89)	243 (85)	252 (80)	
スポーツマネジメント学科	スポーツマネジメント学	79 (30)	79 (30)	77 (27)	81 (30)	
健康学科	健康学	78 (30)	79 (39)	79 (41)	82 (53)	
医療看護学部 看護学科	看護学	202 (191)	196 (192)	194 (192)	201 (195)	講習所 《1,182》 看護学院 《29》 准看護婦学院 《132》 高等看護学校 《775》 看護専門学校 《1,194》 医療短期大学 《1,476》 医療看護学部 《3,180》 累計 《7,968》
保健看護学部 看護学科	看護学	121 (113)	118 (113)	124 (118)	121 (112)	累計 《1,317》
国際教養学部 国際教養学科	国際教養学	117 (78)	111 (61)	221 (150)	211 (128)	累計 《879》
保健医療学部		—	—	231 (128)	221 (127)	累計 《452》
理学療法学科	理学療法学	—	—	116 (68)	111 (63)	累計 《227》
診療放射線学科	放射線技術学	—	—	115 (60)	110 (64)	累計 《225》

14. 卒業後の進路状況

※修了者には博士課程単位取得満期退学者を含む

大学院・学部			進路	人数	修了者数・卒業者数
大学院	医学研究科	博士課程	大学・研究機関	87名	146名
			医療機関	29名	
			民間企業	14名	
			その他	16名	
		修士課程	大学・研究機関	16名	94名
			医療機関	9名	
			民間企業	34名	
			進学	19名	
			その他	16名	
	スポーツ健康科学研究科	博士後期課程	教員・研究機関	9名	12名
			就職（民間企業・公務員等）	3名	
			その他	0名	
		博士前期課程	教員・研究機関	10名	66名
			就職（民間企業・公務員等）	41名	
			進学	7名	
			その他	8名	
	医療看護学研究科	博士後期課程	大学病院等医療機関・保健医療機関	0名	6名
			教員・研究機関	5名	
			その他	1名	
		博士前期課程	大学病院等医療機関・保健医療機関	23名	29名
			教員・研究機関	4名	
			進学	0名	
			その他	2名	
学部	医学部		初期臨床研修医（本学医学部附属病院）	85名	137名
			〃（他大学医学部附属病院）	6名	
			〃（大学病院以外の臨床研修指定病院）	43名	
			その他	3名	
	スポーツ健康科学部		教員・研究機関	63名	415名
			就職（民間企業・公務員等）	272名	
			進学	64名	
			その他	16名	
	医療看護学部		本学医学部附属病院	192名	201名
			本学以外の医療機関	6名	
			進学	2名	
			その他	1名	
	保健看護学部		本学医学部附属病院	96名	121名
			本学以外の医療機関	17名	
			進学	5名	
			その他	3名	
	国際教養学部		教員・研究機関	6名	211名
			就職（民間企業・公務員等）	156名	
			進学	22名	
			その他	27名	
	保健医療学部 理学療法学科		本学医学部附属病院	17名	111名
			本学以外の医療機関	84名	
			就職（民間企業）	2名	
			進学	7名	
	診療放射線学科		その他	1名	110名
			本学医学部附属病院	15名	
			本学以外の医療機関	74名	
			就職（民間企業）	1名	
			進学	14名	
			その他	6名	

15. 教育研究活動の主な概要

【法人・大学】

健康データサイエンス学部の開設

令和5年4月に浦安・日の出キャンパスに本学8番目の学部となる健康データサイエンス学部(入学定員100名)を開設しました。健康×データサイエンスのスペシャリストとして、データ社会の発展に貢献する人材を養成します。

薬学部の設置認可

令和5年9月に本学9番目の学部となる薬学部(6年制、入学定員180名)の設置が文部科学省より認可されました。本学部は臨床実践能力の高い薬剤師や臨床に根ざした創薬を開発することができる薬学研究者の養成を目指し、令和6年4月に浦安・日の出キャンパスに開設します。

学校法人宝仙学園との系属校協定締結

学校法人宝仙学園との教育連携を強化し、教育振興を図るため、令和6年3月1日付にて系属校に係る協定書を締結しました。学校法人はそれぞれ現状のままとして、令和6年4月1日より順天堂大学系属理数インター中学校・高等学校となります。

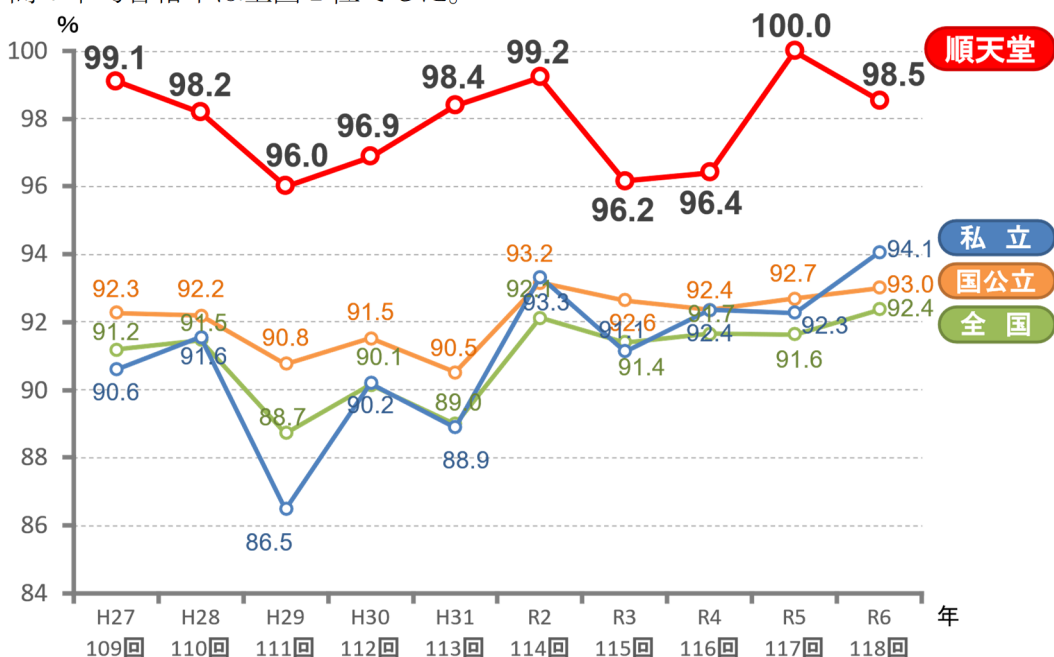
大学基準協会の認証評価

公益財団法人大学基準協会による大学評価を受審し、同協会の大学基準に適合していると認定を受けました。認定期間は令和6年4月1日から令和13年3月31日までの7年間となります。

【大学院医学研究科・医学部】

医師国家試験合格率推移

今年度の第118回医師国家試験では新卒者136名が受験をして134名が合格し、合格率は98.5%となりました。合格率は全国国公立大学82校中5位、直近3年間・5年間・10年間の平均合格率は全国2位でした。



国際基準に基づく医学教育分野別評価の受審

令和 5 年 5 月 30 日～6 月 2 日に一般社団法人日本医学教育評価機構（JACME：Japan Accreditation Council for Medical Education）による医学教育分野別評価を受審し、世界医学教育連盟（WFME）の国際基準に基づく「医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.34」に適合していることが認定されました。認定期間は 2024 年 2 月 1 日から 2031 年 1 月 31 日となります。

健康創薬先端リサーチセンター設置

令和 5 年 10 月より大学院医学研究科に健康創薬先端リサーチセンターを設置しました。本学における臨床シーズを効率的に開発研究に結び付け、学術的基礎研究の推進及び医薬品産業への支援を図り、大学発の健康・機能性素材や医薬品の開発に携わる研究者及び専門職者の養成を行うため、講座及び研究室の枠にとらわれることない拠点として健康医科学の発展及び医薬品産業の活性化に寄与していきます。

【大学院スポーツ健康科学研究科・スポーツ健康科学部】

教員採用試験・就職率

教員採用試験は、現役生・既卒生合わせ、112 名（私学専任合格含む）が合格しました。うち現役生の合格者数は 38 名でした。企業就職志望者 247 名の就職内定率は 99.2%と、引き続き高水準を維持しました。

国際交流活動の活性化

フィリピン・セブ島での海外語学研修を開始し、12 名の学部生が参加しました。また、学術交流協定を締結しているカセサート大学（タイ）から、学生 12 名、教員 3 名を招き、大学院生を中心とした研究発表会を実施したほか、スポーツレクリエーション体験等を通じた相互交流を図りました。

【大学院医療看護学研究科・医療看護学部・保健看護学部】

看護師・保健師・助産師国家試験合格率

医療看護学部は看護師国家試験合格率が 100%、過去 5 年間平均でも 99.5%と高水準を維持するとともに、助産師国家試験は合格率 100%を継続しています。保健看護学部における国家試験合格率は看護師国家試験 98.3%、保健師国家試験 97.5%となり、両学部ともに高水準を維持しています。

	看護師	保健師	助産師
医療看護学部	100%	99.2%	100%
保健看護学部	98.3%	97.5%	—
全国平均（参考）	87.8%	95.7%	98.8%

保健看護学部入学定員増及び教育課程変更

令和 6 年 4 月から保健看護学部入学定員を 130 名から 160 名へ 30 名増加する定員増が文部科学省より認可されました。また令和 6 年度教育課程より保健師課程を選択制へ変更します。

専門看護師認定実績

大学院医療看護学研究科（博士前期課程）修了生 4 名が令和 5 年度専門看護師（CNS : Certified Nurse Specialist）認定試験に合格しました（慢性疾患看護分野 1 名、小児看護分野 1 名、がん看護分野 1 名、母性看護分野 1 名）。これまでの CNS 合格者数は、慢性疾患看護分野 27 名、がん看護分野 16 名、精神看護分野 7 名、老人看護分野 5 名、小児看護分野 5 名、感染症看護分野 9 名、母性看護分野 3 名、在宅看護分野 6 名、急性・重症患者看護分野 1 名の合計 79 名です。

グローバルナースングコース

令和 4 年度より大学院医療看護学研究科にて開設した Global Nursing Course（博士前期課程）、Global Nursing Leadership Course（博士後期課程）は、JICA（国際協力機構）と連携して国際的に活躍できる看護の専門家を育成するという日本初の試みで、留学生向けの英語による学位取得コースです。令和 5 年度には Global Nursing Course 2 名、Global Nursing Leadership Course 2 名の入学者を迎え、大学院への進学を希望する留学生に広く門戸を開いています。

【国際教養学部】

海外留学・研修、英語集中学習プログラム、海外との交流

海外留学（短期・長期）は、現地留学再開後徐々に数が増えて、昨年度の留学先は 10 ヶ国となりました。令和 5 年度に留学、研修開始した学生は次の通りです。

期間	人数	内訳
長期(1年超)	1名	フィリピン・デンマーク1
長期(1年未満)	8名	オーストラリア2、アメリカ3、カナダ2、ニュージーランド1
長期(セメスター)	3名	アイルランド1、アメリカ・オーストラリア1、ニュージーランド1
中期(3ヶ月未満)	3名	オーストラリア2、アメリカ1
短期(1ヶ月未満)	68名	フィリピン49、アメリカ4、ニュージーランド1、マルタ1、フランス10、台湾3
短期(2週間未満)	25名	フィリピン7、タイ18

フィリピン・セブ島現地での英語集中学習プログラムは、46 名の学生が約 1 ヶ月間の研修に参加しました。またセブ島では、2 年生以上を対象にフィールドスタディーを実施し、現地で使われる言語の見識を深め、課題提起型アプローチにより貧困・ジェンダー・保健医療に関する問題に取り組む課題提起型グローバル英語実践研修を行うとともに、課題提起型グローバル英語実践研修はアメリカハワイ州でも行いました。タイのマヒドン大学との共催セミナーやフィールドワークを通じてプライマリケア・地域保健・国際保健などを学ぶグローバルヘルス海外短期研修は 18 名の学生が参加し、フランス研修では語学研修の他、現地高等学校で日本語・日本文化を教える TA プログラムを実践しました。

また中国河南師範大学から 15 名の交換留学生を 1 年間の特別聴講生として受け入れ（昨年度は 7 名）、課程内外で本学部生との有意義な交流が続いています。

「UNHCR 難民映画祭パートナーズ上映会」

国連機関の一つである UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）は難民を国際的に保護・支援し、難民問題の解決に向けた取り組みを行っており、本学は大学パートナーズとして、毎年難民映画を上映し、これを「公開講座」として学外の方々にも参加頂いています。令和 5 年

度は『ムクウェゲ「女性にとって世界最悪の場所」で闘う医師』を上映し、運営委員会の学生と教職員が準備・運営にあたりました。また終了後は、3年生の学生がファシリテーターを務めるワークショップを行い、一般参加の方々と一緒に、難民の人たちの心の痛みに寄り添い世界の一員として自分にできることは何かを考えるきっかけとなりました。

企業就職率・教員採用試験・大学院進学

令和5年度4年生（第6期生）の企業・公務員就職志望者157名の就職内定率は98.7%となり、第1期生からの6年間平均内定率は97.9%と高い水準を維持しました。

教員志望者は公立学校教員採用試験を受験した8名（現役学生6名、既卒者2名）が全員合格し（100%合格は学部開設後3度目）、学部開設後累計の合格者は22名、私立学校を含めた教員就職者は27名となりました。また東京都が全国で先駆けて実施した教員採用試験3年次早期受験は、9名受験して8名が合格し次年度の二次試験へ進みました。

進学希望者は、本学大学院国際教養学研究科4名、医学研究科10名を含め、23名が国内外の大学院・大学・各種学校へ進学しました。

国際教養特別講義

1年生前期「国際教養概論」では、国際性と「仁」の精神を兼ね備えたグローバル市民となるために、「グローバル社会」「異文化コミュニケーション」「グローバルヘルスサービス」の3領域から、本学部で学ぶ分野の広がりや国際的なリテラシーとの関わりを学びます。後期「国際教養特別講義」は、前期の学びをさらに発展させる形で、多様な分野において活躍、貢献されている特別講師を招聘し、令和5年度は10名の講師に計16回の講義をして頂きました。

大学院国際教養学研究科の設置認可

令和5年3月に文部科学省へ設置認可申請を行った国際教養学部を基礎とする大学院国際教養学研究科修士課程（入学定員5名）が、令和5年9月4日付で認可されました。本研究科は令和6年4月開設の予定で、学士課程で培われた教養教育に裏打ちされた専門的素養を一層向上させ、グローバル化された社会が抱える課題解決に必要な分野横断・学際的な知識・教養である国際教養学を教授し、知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材を養成します。

【保健医療学部】

理学療法士・診療放射線技師国家試験合格率

保健医療学部は学部開設5年目を迎え、2期生が国家試験を受験しました。理学療法士国家試験、診療放射線技師国家試験ともに高い合格率を記録しました。

	受験者	合格者	合格率
理学療法士国家試験	111名	111名	100.0%
診療放射線技師国家試験	112名	111名	99.1%

第1種放射線取扱主任者試験合格実績

第1種放射線取扱主任者試験に診療放射線学科の4年生6名、3年生17名、2年生11名の合計34名が合格しました。前年度までに同試験に合格した本学部の学生が、スチューデントアシスタントとして、受験予定学生に勉強ノウハウを共有する取り組みを行っています。

大学院保健医療学研究科修士課程の開設及び博士後期課程の設置認可申請

保健医療学部を基礎とする大学院保健医療学研究科修士課程（理学療法学専攻・診療放射線学専攻）を開設しました。国内外を問わず多様な場で社会貢献できる高度な実践能力をもち、理学療法学、診療放射線学のあり方を探求することのできる人材を養成します。また令和7年4月の開設を目途として、文部科学省へ博士後期課程（入学定員8名）の設置認可申請を行いました。修士課程で培われた理学療法学・診療放射線学に関する専門的知識や技術の基本的応用能力及び当該分野の諸問題に対して体系的に整理し客観的に分析する能力を持つ人材を養成します。

【医療科学部】

第2種 ME 技術実力検定試験合格

第2種 ME 技術実力検定試験に臨床工学科の1年生3名、2年生21名が合格しました（昨年度は1年生1名が合格）。当検定試験は臨床工学技士国家試験の出題範囲と重なり、早期に合格し実力をつけておくことが、国家試験合格への近道となります。今後も低学年のうちに合格できるよう、指導を推進していきます。

海外短期研修プログラム実施・大学間交流協定締結

アジアを含む海外の医療の現状を学ぶことや異文化体験を目的に、初めての海外短期研修をカンボジア及びタイにて実施しました。カンボジアでは、臨床検査学科の学生11名が、首都プノンペンの国立カンボジア健康科学大学と民間検査センターで研修を行いました。タイでは、臨床工学科の学生12名が、首都バンコクの国立タマサート大学と日系の医療機器メーカー研修施設で研修を行いました。国立タマサート大学とは大学間交流協定（MOU）の締結にまで至りました。

【健康データサイエンス学部】

大学・高専機能強化支援事業（支援2）に選定

大学・高専機能強化支援事業における高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援（支援2）の特例枠に選定されました。5年間総額で2億8,000万円の補助金が交付されます。本事業を活用して、健康データサイエンス学部を基礎とする大学院健康データサイエンス研究科（博士前期課程・博士後期課程）を令和7年4月に開設すべく、文部科学省へ設置認可申請を行いました。各業界で活躍するデータサイエンスに関する高度専門人材を教員として招聘し、本学の教育研究の更なる向上を図ります。

浦安・日の出キャンパス開設記念シンポジウム

医療科学部及び健康データサイエンス学部が共催で、浦安・日の出キャンパス開設記念シンポジウムを開催しました。新井一学長による開会挨拶、大学院医学研究科小林弘幸教授及び健康データサイエンス学部岩崎学特任教授による基調講演の後、学部に分かれて活発なパネルディスカッションが行われました。シンポジウム会場には、令和5年7月に竣工した2号館1階のプレゼンホール等を使用し、当キャンパスが「開かれた知の拠点」であることを学内外にPRすることができました。

16. 臨床活動の主な概要

○新型コロナウイルス感染症への対応

【順天堂医院】

感染対策のために患者の出入口を1号館正面玄関一か所としていましたが、令和5年5月8日から新型コロナウイルス感染症の感染法上の分類が5類になったことを受け、C棟出入口の使用を再開しました。入口にサーマルカメラを設置し、発熱者のトリアージは継続して実施しています。また必要箇所にはアクリル板や空気清浄機を導入するなど院内環境の整備に努め、ユニバーサマスクポリシーを遵守しています。予定入院患者について入院前PCR検査の全件実施、緊急入院等迅速に対応を要する患者にはPOCT検査を実施していましたが、徐々に緩和を行い、予定入院については、全例PCR検査を廃止し、入院時の医師による健康チェックを強化して院内感染防止に細心の注意を払っています。

新型コロナウイルス感染症の発生当初より設置していたB棟地上階の「発熱外来」は廃止し、外来においては各診療科で感染防止対策マニュアルに則り対応しています。

本年度も東京都の要請に応じて新型コロナウイルス感染症入院重点医療機関として重症患者用14床、中等症患者用30床、計44床をCOVID専用病床として運用する等、流行状況に応じた病床を確保し、地域の保健行政に協力貢献しています。

その他、院内の密の回避や利便性の向上を図るため、引き続き、「オンライン診療」「あと払いクレジットサービス」「薬剤配送サービス」の連動、「ウォークスルー検査」等を推進しています。特にあと払いクレジットサービスは利用率30%以上を達成し、窓口の混雑緩和に大きく貢献しています。入院診療においては、iPadを利用した面会を導入し、患者の不安や精神的ストレス緩和につながっています。また日本IBMによる大学院医学研究科共同研究講座「メディカル・メタバース共同研究講座」で開発されたバーチャルホスピタルにより、来院しなくてもHP内でアバターを操作して院内の施設・環境を知ることができ、事前に病院の状況を知ることができます。面会等においてもメタバース面会アプリの活用を進めています。

【静岡病院】

令和4年度に引き続き、発熱外来では、ドライブスルー方式で検体が採取できるような仕組みを取り入れ、感染防止に努めました。令和6年2月末に発熱外来を終了し、各科外来での対応に移行しました。

入院では、新型コロナウイルス感染拡大とともに最大42床まで増床していた確保病床を、収束とともに減床させ、令和5年10月にはCOVID専用病棟（2C病棟）を閉鎖し、各病棟個室での対応に移行しました。

新型コロナウイルスワクチン基本型接種施設として、当院の医療従事者をはじめ、保健看護学部学生及び一般市民に対し春接種（6回目）、秋接種（7回目）のワクチン接種を行いました。令和4年3月から開始した小児（5-11歳）を対象とした初回接種（1、2回目）及び追加接種（3、4回目）を継続するとともに、令和4年11月から開始した乳幼児（生後6ヶ月～4歳）を対象とした初回接種（1、2、3回目）の接種を継続して行いました。これまでに延べ約60,000回の接種を行いました。

【浦安病院】

令和5年5月に5類に移行するまでは、千葉県重点医療機関として、7C病棟（個室27床）、ICU病棟（最大12床）を専用病床とし、発熱外来・発熱相談体制を整備し、その後は通常体制としながらも千葉県妊婦モニタリング等、業務の受託継続も含めて、多くの新型コロナウイルス感染患者の受け入れを行いました。また新型コロナウイルスワクチンに関しては、浦安市と連携を行い、一般市民を対象とした集団接種会場への問診医師派遣及び病院での個別接種を行いました。

院内スタッフの感染対策については、浦安病院独自のリバイバルプラン（STEP1～3）を策定し、千葉県及び周辺地域の感染拡大状況に応じて都度STEPを設定し、スタッフの感染拡大防止に努めました。特にクラスター予防対策として、全スタッフ（委託職員を含む）を対象としたユニバーサルN95・KN95マスク着用義務付けを継続して実施しました。

【順天堂越谷病院】

新型コロナウイルス感染症の第5類への移行後対応として、引き続き来院者には出入口を正面玄関のみに制限し、毎朝受付開始時よりサーマルカメラを設置して入館前の検温を実施し、発熱者には専用の臨時診察室を設置し運用してきました。

入院患者には、クラスター発生予防のため、スクリーニング検査の実施、面会制限、外泊制限を継続しています。

また新型コロナウイルス感染症感染後の対応として、コロナ後遺症外来を実施しています。

【順天堂東京江東高齢者医療センター】

感染症法上の対応が第5類に移行した後も前年度と同様に、主として高齢者、認知症のCOVID-19患者を積極的に受入れました。陰圧対応の個室に加え、空気清浄機を配置することで一般個室での対応も可能とし、引き続き多くの患者応需に対応することができました。一般個室でCOVID-19の対応が可能になったことで、陰圧管理を要するCOVID-19以外の感染症患者の受け入れもスムーズに行うことができました。

院内感染対策では面会制限を緩和し、病院出入口は一部を除き使用禁止を解除しました。一方で院内マスクの着用は継続としました。また入院時に一律で行っていた疑似症以外のSARS-CoV-2 PCR検査は、当院のこれまでの検査実績を踏まえ検討し廃止しました。

COVID-19対応に関しては流行状況と国内の対応方針、そして当医療センターの状況を詳細に検討した結果、院内対応マニュアルの改訂は都度行われ、目下第15版の発行に至っています。

【順天堂練馬病院】

令和2年4月7日の新型コロナウイルス感染症の流行に伴う緊急事態宣言を受け、その翌日に立ち上げた災害対策本部（本部長：救急・集中治療科野村智久）が、令和5年5月8日新型コロナウイルス第5類感染症への移行の後、令和6年3月末をもって活動を終了しました。

地域医療支援病院として従来の診療を継続しつつ、新型コロナウイルス感染症入院重点医療機関、疑い患者受入協力医療機関として、発熱外来や発熱により救急外来を受診される方、搬

送されてくる重症患者に引き続き対応し、多くの患者を受入れました。

また練馬区酸素・医療提供ステーションの設置（令和3年9月）及び運営に対して助言や医師、看護師の派遣協力を引き続き行い、その貢献に対し7月に東京都知事から感謝状を頂きました。令和5年度も地域住民や保健所等の要請に十分に答えることができたと考えています。

令和6年度以降は第一種・第二種協定指定医療機関の契約を締結し、今後も新たな感染症発生、蔓延時に備えた体制、整備を整えていきます。

○令和6年能登半島地震への対応

令和6年1月1日に発生した能登半島地震において、医療従事者の派遣等、様々な支援活動を行いました。

順天堂医院は、医師1名、看護師2名、業務調整員1名からなるDMATチームを現地に派遣しました。1月26日、参集場所の能登中央保健医療福祉局調整本部に到着し、翌27日から29日までの3日間、他施設のDMATチームの派遣調整や周辺情報集約等の活動に従事し、30日に無事帰院しました。今後も災害時の派遣要請に速やかに応えられるようDMATチームは引き続き訓練を継続・維持していきます。

浦安病院は、千葉県からの派遣要請を受け、1月14日～17日に医師1名、看護師2名、業務調整員2名からなるDMATチームの派遣を行いました。主に石川県輪島市内の小・中学校及び保健医療福祉調整本部において、避難所での夜間見廻りや薬剤師業務のサポート、避難所内で入院が必要となった方々の病院搬送調整等の業務を行いました。

越谷病院は、空飛ぶ捜索医療団ARROWSからの要請により、1月9日～16日及び2月26日～3月4日の2度に渡り、看護師1名を派遣しました。石川県珠洲市を拠点とし、被災者救出支援、避難所支援、物資支援、給水支援等の支援活動を行いました。

高齢者医療センターは、日本看護協会から災害支援ナースの派遣要請があり、2名の看護師が災害支援活動に従事しました。避難所での巡回や発熱・嘔吐・下痢など感染症症状の対応、DMAT・連携、フロアマップの作成など多岐にわたる業務を行いました。

練馬病院は、東京JMATの先発隊として1月9日から12日まで医師2名、看護師1名、救急救命士1名を派遣しました。また厚生労働省DMAT事務局からの依頼を受け、日本DMAT隊として1月17日から21日まで医師1名看護師2名、薬剤師1名を派遣しました。

○その他の臨床活動の概要

【順天堂医院】

医療情報システムの更新

令和5年1月に医療情報の基幹システムを富士通からIBMのシステムに更新しました。病床稼働率や空床状況が瞬時に確認できるようになり、今まで以上に効率のよい病床の有効利用が期待されます。また従前では対応できなかった様々なデータの抽出が可能となり、抽出データを活用して、更なる医療の質の向上に努めるとともに、今後も更なる機能向上に取り組んでいきます。

上記システム更新とともに、通院支援アプリ「マイホスピタル」、「あと払いクレジットサービス（あとクレ）」の利用を促進し、快適な受診環境を提供していきます。

病院機能評価受審

9月4日から6日にかけて特定機能病院承認要件を踏まえ、以前より全般的に要求水準が引き上げされた病院機能評価「一般病院3（ver3.0）」を受審しました。日本医療機能評価機構による第三者評価を受けることにより、医療安全、感染対策、高難度新規医療、教育機関としての取り組み、医療連携体制など、自院が取り組むべき様々な課題等を改めて認識し、更なる病院管理体制の充実や医療の質向上につなげていくことができます。今回の受審結果を踏まえて、更に安心安全な医療が提供できるよう取り組みを進めていきます。

総合防災訓練

10月22日に総合防災訓練を実施しました。コロナ禍により訓練を控えていたため、病院全体としては2019年以来4年ぶりの訓練実施となりました。当日は東京湾北部を震源とするマグニチュード7、震度6強の地震が発生したことを想定して、災害対策本部の立ち上げ、多数傷病者の受入トリアージ訓練、炊き出し訓練等を実施しました。施設の被害やインフラの復旧状況等のトラブルへの対応も求められ、大変意義のある訓練となりました。都内においても首都直下型地震の発生が憂慮される状況にあります。万が一の災害が起きた際には被害を最小限にし、途切れることのない医療が提供できるよう、引き続き実践的な訓練に取り組んでいきます。

自衛消防力診断審査金賞受賞

令和5年10月27日に本郷消防署員が来院し「自衛消防力診断審査」が行われました。病院チームを編成し、リハビリテーション室、看護部、放射線部から選手を選出して審査に臨みました。この審査は、各参加事業所に消防署員が出向き火災発生時の自衛消防能力のレベルを評価するものです。当院のチームは、訓練時以上のパフォーマンスを発揮し、見事「金賞」を受賞し、消防署から高い評価を頂きました。

【静岡病院】

増改築工事推進状況

地域医療連携推進法人制度を用いて、令和4年3月に静岡県から56床の増床が認められ、令和5年5月1日より607床、7月1日から630床に増床し運用しています。新棟Ⅱ期棟の竣工及びその後の既存棟改修工事を経て、令和6年度中に633床までの増床を予定しています。

TAVI（経カテーテル弁置換術）治療

令和3年11月よりハイブリット手術室の本格稼働に伴い、令和4年3月22日にTAVI（経カテーテル弁置換術）の実施施設に認定されました。TAVIは、重症大動脈弁狭窄症に対する新しい治療方で、カテーテルを使用して心臓に人工弁を留置します。患者の体への負担が少なく、入院期間が短いのが特徴です。令和4年4月開始から令和6年3月までで、125件のTAVI（経カテーテル弁置換術）を実施しました。

歯科口腔外科

令和5年9月より新しい診療科として、歯科口腔外科を開設しました。関連の診療科と連携し、入院して全身麻酔による手術・放射線治療・化学療法を行う患者を対象とした周術期口腔機能管理を行い、感染症等に対する予防効果により治療の向上を図ります。

地域医療連携推進法人の連携促進

地域包括ケアの実現による地域医療構想実現を目的として、令和3年度に地域の病院により「地域医療連携推進法人 静岡県東部メディカルネットワーク」を立ち上げました。令和5年度は、事務部会において、連携病院間での地域医療連携システム導入に向け話し合いを行いました。また人事交流を促進し連携強化を図りました。

看護師特定行為研修

令和5年度は、看護師特定行為研修として新たに「精神及び神経症状に係る薬剤投与関連」を開講し、計8区分23行為（3パッケージ）の研修を行いました。院内10名、院外1名の受講生が特定行為研修を修了し、令和5年度末時点で38名が在籍しています。

大規模地震時医療活動対応訓練

令和6年1月29日に院内災害訓練を実施しました。各部署の初動体制及び実効性の確認を行い、院内災害対策本部を中心に院内相互協力体制の円滑化の検証を行いました。訓練終了後にはアンケートにて本部・各部署の対応改善、マニュアルの習熟度を検証しました。また静岡県主催の大規模災害時医療訓練に静岡病院 DMAT チームが参加しました。

【浦安病院】

フットケアセンター及び身体(からだ)機能検査センター開設

4月1日に「フットケアセンター」を開設しました。近年増加の一途を辿っている下肢血管の動脈硬化に起因する末梢動脈疾患の患者の救済を図るため、専門医と多職種によるチーム医療を展開しています。地域医療機関からの紹介患者の受入を更に増加するとともに、入院患者に対しても、最新かつ専門的で早期な治療に取り組んでいます。

また同日「身体(からだ)機能検査センター」を開設しました。当院で行っている様々な生理機能検査を集約し、診療の効率化を図りました。また中央採血室も同センター内に移転し、患者動線や待ち時間が短縮され、患者負担が軽減されるとともに、中央廊下待合席の混雑が改善されました。

高度救命救急センターの指定

9月1日に千葉県より県内では2施設目となる「高度救命救急センター」に指定されました。高度救命救急センターは、特に広範囲熱傷、指肢切断、急性中毒等の特殊疾患患者を24時間受入れることができる診療機能を有する施設です。当センターの「高度化」指定に当たっては、厚生労働省の「救命救急センター充実段階評価」において5年連続で最高ランク(S)を取得し、多くの重症患者や特殊疾病患者を受入れた実績と、チーム医療を推進する専門性の高いスタッフ、高度な医療設備・機器を有することが評価されました。引き続き人口が密集する周辺地域の高い救急医療需要に応え、安全で質の高い医療が提供できるよう努めます。

新型コロナウイルスワクチン接種及び厚生労働省安全性調査の実施

12月19日～21日の期間で、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の一環として、全教職員を対象に院内集団予防接種を実施しました。また厚生労働省より依頼があった「安全性調査」、浦安市民向けの「個別接種」や「浦安市集団接種会場への問診医師派遣」等、国や市と密接に連携しながら、ワクチン接種事業に積極的に取り組みました。

電子カルテシステムの更新及び通院サポートアプリ「コンシェルジュ」導入

12月11日に電子カルテシステムの更新を行い、安全でスムーズな診療が行えるよう機能やセキュリティ面が向上しました。また新たに通院サポートアプリ「コンシェルジュ」を導入し、スマートフォンで次の受診日や検査予約日時、診察状況などが確認可能となる等、通院支援ツールとして患者サービスの向上を図りました。

MRI 装置の更新

12月11日に、老朽化したMRI装置をGE社製のMRI（3.0T）へ代替しました。この装置では、一部の撮影において非常に静かな撮影（サイレント・スキャン）が可能となりました。またAI（人工知能）を用いた画像再構成技術の向上により、従来に比べて短い時間でも雑像の少ない画像が得られるようになりました。画像解像度の向上や疾患のない人が健康であると評価する指標（診断能）の向上が期待できます。

【順天堂越谷病院】

広報活動の強化

広報活動の一環として、健康講座を毎月開催するとともに、医師や診療支援部門からの動画をオンデマンド形式でいつでも視聴できるよう対応しています。病病連携、病診連携の一環として、医療連携だよりを新たに作成し、近隣医療機関に送付しました。診療日割表、診療科案内のリーフレットを東部二次医療圏を中心に送付し、医療連携の強化に努めています。

医療観察法への協力

心神喪失者等医療観察法に基づく指定通院医療機関として、さいたま保護観察所と連携して、対象患者の社会復帰に向けて地域精神医療への貢献を図っています。

東京出入国在留管理局への協力

東京出入国在留管理局からの要請で、収容されている外国籍の方の精神症状に係る治療相談があり、医療保護入院による治療を3カ月間実施しました。

【順天堂東京江東高齢者医療センター】

医療連携強化

最新の診療ガイドライン及びエビデンスと医療情報の提供を目的とした「高齢者医療に関するWEB学術講演会」を近隣3区の医師向けに毎月1回実施しています。当院の認知症疾患医療センターは東京都内12か所の地域拠点型認知症疾患医療センターの1つとして、東京都の指定を受けており、医師、看護師等の地域医療従事者への認知症ケアの研修会や患者、家族、医療従事者の交流会等を実施しました。

精神病棟入院基本料（10：1）

精神病棟の平均在院日数を40日以内に短縮し、精神病棟入院基本料（13：1）から精神病棟入院基本料（10：1）に変更しました。認知症患者及び身体合併症を持った認知症患者を数多く受け入れました。

地域医療体制確保加算

救急患者の受入れを強化し、年間2,000台以上の救急車を受入れたことにより、令和6年度から地域医療体制確保加算が算定可能となりました。

紹介受診重点医療機関の認定

8月1日より紹介受診重点医療機関に認定されました。併せて2月1日より初再診時の選定療養費を変更しました。

スマートフォンによる診察待ち状況の確認

外来の診察待ち状況が自分のスマートフォンで確認できるようになりました。

血管撮影装置の更新

8月に血管撮影装置を更新しました。月間約35件の検査を実施しており、今まで以上に質の高い検査が可能となりました。

【順天堂練馬病院】

東京都救命救急センター（三次救急）の指定

開院以来、地域に根差した救急医療体制の整備に貢献してきた結果、令和5年3月20日より東京都救命救急センター（三次救急）に指定されました。指定後も病院全体を挙げた受入体制の構築により、大きな混乱もなく、三次選定の救急車を1,400台超、初療患者も含めると11,000件超の救急患者を受入れました。

看護師による特定行為研修・修了者の排出

令和4年8月に厚生労働省「特定行為研修指定研修機関」として認定を受け、特定行為研修を開始しました。令和5年10月に、1期生（術中麻酔管理領域他）6名が修了いたしました。地域医療の発展や働き方改革への貢献が期待される中、新たなユニフォームをまとい、研修の成果を手術室や病棟で発揮しています。来季以降の特定行為研修では、後任を育てる指導者としても活躍し、教育機関としての充実も図る予定です。

東京 DMAT 病院に指定

東京都救命救急センターへの指定に伴い、令和6年3月付で東京都より災害医療派遣チーム東京 DMAT 指定病院に認定されました。それに伴い、災害時医療支援車両（DMAT カー）を貸与されました。今後も、災害医療体制の充実に貢献していきます。

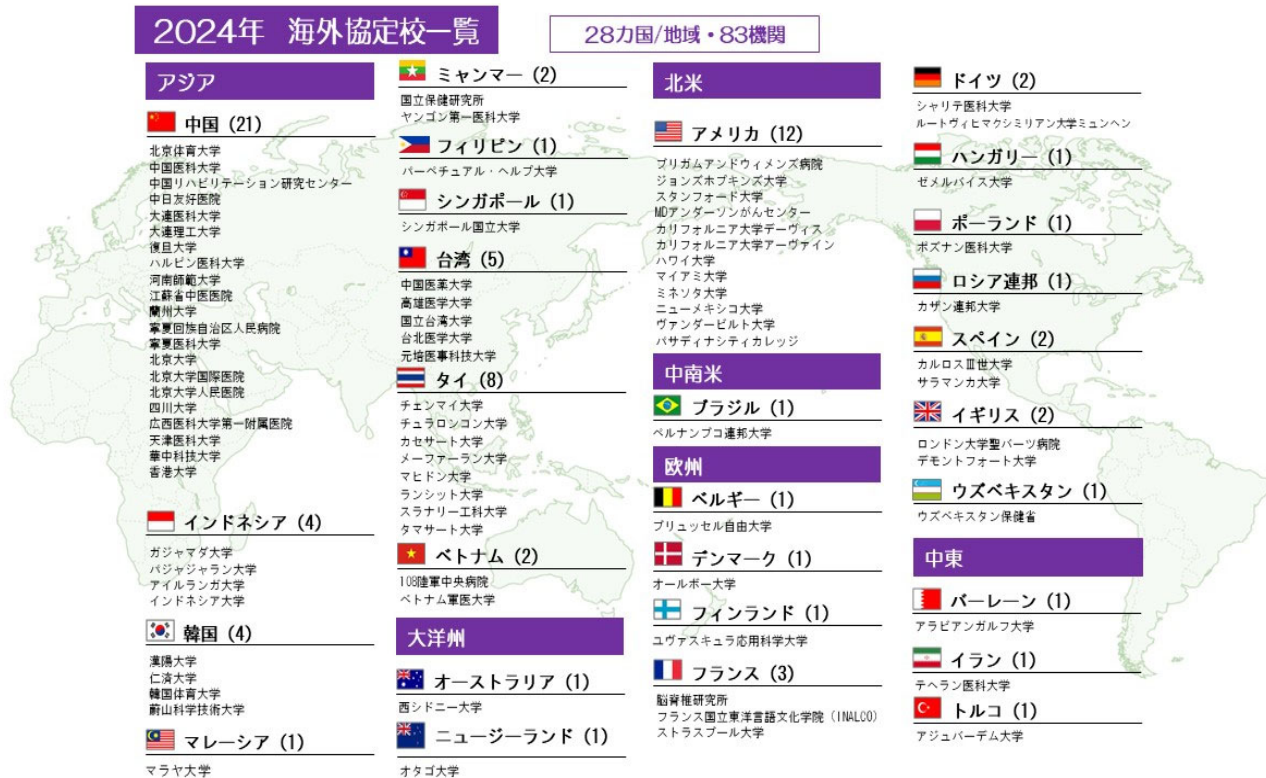
認知症施策の連携、自殺未遂者等支援事業に関する協定を締結

令和6年3月に地域医療施策への協力の一環として「認知症施策の連携」及び「自殺未遂者等支援事業」の運営に関する協定を練馬区と締結しました。認知症施策では、練馬区が実施する検診において、認知機能低下など、更に詳しい検査や診断が必要な方に対して、当院での受診を受け入れるなど行政と連携した取り組みを行います。自殺未遂者に対する支援については、自殺企図で当院に搬送された方やそのご家族の相談に応じ、関係機関に繋ぐなどの支援を行います。

17. 国際交流活動

【大学交流協定について】

パーペチュアル・ヘルプ大学（フィリピン）、パサディナシティカレッジ（アメリカ）、フランス国立東洋言語文化学院（INALCO）（フランス）と協定を新たに締結し、協定機関は 28 カ国／地域、83 機関となりました。



© Juntendo University International Center (JUIC), 2018. All rights reserved.

【学術交流について】

大学間交流イベント等を開催しました。

開催日	相手先	内容
5月25日	蘭州大学第二医院（中国）	同医院関係者来訪・協議
6月 6日	中日友好医院（中国）	同医院関係者来訪・協議
7月25日	中国人民解放军空軍軍医大学（中国）	同大学関係者来訪・協議
8月 3日	マヒドン大学（タイ）	同大学関係者来訪・協議
8月10日	北京大学（中国）	同大学人民委員関係者来訪・協議
9月13日	中日友好医院（中国）	同医院関係者来訪・協議
10月11日	北京大学（中国）	第9回順天堂大学-北京大学国際学術シンポジウム
10月19日	中国国家衛生健康委員会人材交流服務センター（中国）	同センター関係者来訪・協議
10月19日	浙江大学（中国）	同大学関係者来訪・協議
10月31日	大連医科大学（中国）	同大学関係者来訪・協議
11月14日	中国国家衛生健康委員会（中国）	同委員会関係者来訪・協議
11月16日	北京体育大学（中国）	同大学関係者来訪・協議
11月28日	中山大学（中国）	同大学関係者来訪・協議

【留学生の研修・交流活動について】

「留学」の在留資格を有する長期外国人留学生は 23 カ国／地域から合計 230 名在籍しました。

○ 外国人留学生【在留資格：留学】 (令和 5 年 4 月 1 日から令和 6 年 3 月 31 日まで)

No	国／地域名	人数	No	国／地域名	人数	No	国／地域名	人数
01	中国	182	09	インドネシア	2	17	コンゴ民主共和国	1
02	韓国	6	10	ネパール	2	18	コンゴ共和国	1
03	台湾	6	11	ベトナム	2	19	イギリス	1
04	ミャンマー	4	12	モンゴル	2	20	モンゴル	1
05	メキシコ	4	13	バングラデシュ	1	21	タイ	1
06	ウズベキスタン	3	14	オランダ	1	22	ブータン	1
07	タイ	3	15	インド	1	23	ルーマニア	1
08	マレーシア	3	16	ブラジル	1	合計：23 カ国／地域 230 名		

※学部生、大学院生（修士・博士）、外国人研究生、特別研究学生

○ 外国人短期研修生 (令和 5 年 4 月 1 日から令和 6 年 3 月 31 日まで)

No	国／地域名	人数	No	国／地域名	人数	No	国／地域名	人数
01	タイ	55	18	オマーン	4	35	ベトナム	1
02	ドイツ	36	19	イタリア	3	36	台湾	1
03	台湾	33	20	香港	3	37	ペルー	1
04	日本*	25	21	マレーシア	3	38	メキシコ	1
05	韓国	21	22	イギリス	2	39	パプアニューギニア	1
06	中国	41	23	クウェート	2	40	ベルギー	1
07	イギリス	18	24	デンマーク	2	41	オランダ・イギリス	1
08	オーストラリア	16	25	スペイン	1	42	サウジアラビア・イギリス	1
09	アメリカ	15	26	ブラジル	1	43	イギリス・日本	1
10	マレーシア	12	27	中国	1	44	ブラジル・アメリカ	1
11	フィリピン	10	28	シンガポール	1	45	南アフリカ・ドイツ	1
12	フランス	9	29	アイルランド	1	46	日本・アメリカ	1
13	ウクライナ	7	30	香港	1	47	ドイツ・イギリス	1
14	シンガポール	6	31	ブルガリア	1	48	タイ・アメリカ	1
15	ポーランド	5	32	ハンガリー	1	49	イタリア・ブラジル	1
16	ニュージーランド	5	33	インドネシア	1			
17	オーストリア	4	34	ブラジル	1	合計：43 カ国／地域 362 名		

*海外の大学に在籍する日本人学生

【海外への学生派遣について】

各学部・研究科において、合計 247 名（延べ人数・実人数は 244 名）の学生が 20 カ国／地域に留学（短期・長期）しました。

学部・研究科	渡航先	人数	渡航先	人数
医学部	アメリカ合衆国	28	イタリア	1
	タイ	4	オーストラリア	1
	イギリス	3	カナダ	1
	シンガポール	2	中国	1
	アイルランド	1	フランス	1
医学研究科	アメリカ合衆国	3	タイ	1
	カナダ	1	フランス	1
	カンボジア	1	メキシコ	1
スポーツ健康科学部	フィリピン	12	韓国	2
スポーツ健康科学研究科	マレーシア	6	韓国	2
	フランス	2	オーストラリア	1
医療看護学部	アメリカ合衆国	3	イギリス	12
国際教養学部	フィリピン	58	オーストラリア	4
	タイ	19	ニュージーランド	3
	アメリカ合衆国	17	アイルランド	1
	フランス	10	デンマーク	1
	カナダ	5	フィンランド	1
	台湾	5	マルタ	1
保健医療学部	台湾	17	カナダ	3
医療科学部	カンボジア	11	タイ	12
合計：20カ国／地域 259名（延べ人数・実人数：256名）				

【国際研究活動について】

○ 順天堂大学教員のサバティカル研修について

教員のサバティカル研修制度を実施しています。サバティカル研修とは、教育・研究の遂行に必要な資質の向上を図るため、教員自らが研究目標を定めて一定の期間にわたり国内外の教育・研究機関において研究活動に専念する研修のことを指します。海外で学位を取得した研究者や海外での教育研究歴を有する者の獲得、または若手教員のキャリア支援にとって有効な制度の一つとして考えられており、国内外の多くの大学が取り入れています。

本学にとって、国際化を推進し、優秀で多様な人材を育成・確保していくことは喫緊の課題となっています。また優秀な若手教員のグローバル・ファカルティ・ディベロップメントのニーズに応えることは本学の発展に欠かせません。令和 5 年度は医学部 5 名を派遣しました。

18. 文部科学省等採択事業の概要

科学研究費助成事業

令和5年度文部科学省「科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金／科学研究費補助金）」（同省令和5年8月公表）の新規採択率は33.1%、採択件数は755件（継続含む）で私立大学620校中、採択件数・配分額ともに第3位となりました。本学の研究活性化に伴い採択件数、配分額ともに増加基調を続けています。

私立大学等研究設備整備費等補助金・私立学校施設整備費補助金

令和5年度文部科学省「私立大学等研究設備整備費等補助金（私立大学等研究設備等整備費）」に大学院医学研究科研究基盤センター共同研究・研修室（I）から事業申請した研究設備「シングルセル分注機 CellenONE システム」及び医療看護学部から事業申請した教育基盤設備「分娩台マミージョイ」が採択されました。また令和5年度私立学校施設整備費補助金（私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費）に本郷地区情報センターから申請したICT活用推進事業「本郷・お茶の水キャンパス ICT 活用推進事業」が採択されました。これらの研究設備・教育基盤設備・ICT環境を活用し、更なる教育研究の充実を図ります。

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）

文部科学省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）」に採択されました。東京医科歯科大学と連携して行う本事業では、女性研究者のライフイベント及びワーク・ライフ・バランスに配慮した研究環境の整備を実施し、女性研究者の研究力向上のための取組として、オンラインにて合同シンポジウム等を開催しました。ライフイベントにより研究中断、あるいは離職した女性研究者の復帰・復職支援及び女性研究者の上位職への積極登用に向けた取組を行い、「グローバル女性リーダーの育成・輩出」と「医療系大学における女性上位職登用促進モデルの構築」を実現するため、数値目標を掲げ、独自のアイデアで全学を挙げ取組んでいます。

研究拠点形成費等補助金事業

令和5年度文部科学省研究拠点形成費等補助金「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」（代表校：東京医科歯科大学、連携校：順天堂大学、慶應義塾大学、国際医療福祉大学、東海大学、東京歯科大学、東京薬科大学）が採択されました。本事業では、①現場で顕在化している課題、②予防の推進、③新たな治療法の開発、というがん医療のテーマを解決するため「専門的な多職種人材」の養成を目的としています。本事業の特色は首都圏の7大学においてチーム医療が実践できる多職種のがん専門医療人の養成プランを開発し、がんの予防、診断・治療、個別化医療、痛みのケア、サバイバーのケアなど全てのステージにおいて集学的治療が提供できる体制を我が国に構築することを目指しています。

統計エキスパート人材育成プロジェクト

大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 統計数理研究所が中核機関となる令和5年度文部科学省人工知能等社会実装研究拠点事業費補助金「統計エキスパート人材育成プロジェクト」の参画機関として、大学院生等に対してデータ分析等の基礎となる統計学の講義や統計活用研究の指導を行うことができる「大学統計教員」を育成します。これらの教員が中核となり、さらに全国の大学等で「統計エキスパート」を育成する体制の構築を目指します。

地域中核・特色ある研究大学 施設整備事業

令和5年度に地域中核・特色ある研究大学 施設整備事業（令和4年度文部科学省補正予算）（提案大学：順天堂大学、連携機関：山梨大学）に採択されました。本事業では、「高齢者を加齢性疾患から守った上で、若年者を含む全世代の生活向上と健康増進を図る」という地球規模の社会課題の解決のため、順天堂大学は、臨床に直結する神経科学研究全般分野の特色ある実績を活かし、当該分野のパラダイムシフトに関わる重要な学際領域であるグリア細胞研究に実績を有する山梨大学と連携し、世界トップクラスの研究力の向上、拠点発スタートアップの創出を目指し、変革に対応しうる人材を育成し、この若手人材を核とした新たな当該研究領域における産学官連携ハブとして相補的な機能を有する拠点施設ニューロン-グリア クロストークセンター順天堂（NGCC 順天堂）を本郷・お茶の水キャンパスエリアに整備し、山梨大学が整備するニューロン-グリア クロストークセンター山梨（NGCC 山梨）と強固に連携します。令和5年度は新築工事基本計画、基本設計、実施設計および既存 ISO ビルの解体工事を実施し、新築工事の請負契約を締結しました。

JST 共創の場形成支援事業（COI-NEXT）

令和5年度に JST 共創の場形成支援事業（COI-NEXT）の共創タイプ・育成型「災害など危機的状況から住民を守る レジリエントな広域連携医療拠点」（代表機関：順天堂大学、参画機関：千葉大学、山梨大学、群馬大学、福島県立医科大学、企業等：18 社、自治体：東京都、文京区、山梨県、南アルプス市、群馬県、御前崎市）として採択されました。本事業では、5 大学が連携することにより広域連携医療拠点を構築し、東日本大震災等の長期的な調査研究から得られた様々な知見に基づき、災害後の亜急性期から中長期における住民の健康課題を解決する技術を開発することにより、災害など危機的状況から住民を守る豊かで強靱な社会を築くことを目指します。令和6年度中の育成型から本格型への昇格に向け、ビジョン、ターゲット、研究開発課題の洗い出しとブラッシュアップを図っており、10 年後、20 年度後にありたい社会を築くためのバックキャスト型の研究開発に取り組んでいます。

19. 教育研究施設・設備の充実

【本郷・お茶の水キャンパス】

留学生寮新築工事

国際化をより一層推進すべく、本郷・お茶の水キャンパス近傍に留学生寮を新築しています。令和6年8月に竣工予定です。



【さくらキャンパス】

第3体育館（小川スーパーアリーナ）竣工

令和5年7月末日に可動床式50mプールとアリーナ、診療所を内包する第3体育館（小川スーパーアリーナ）が完成しました。実技実習授業や部活動のみならず公式戦の会場としても活用されています。9月には水球日本代表（ポセイドンジャパン）の合宿地に採用されました。



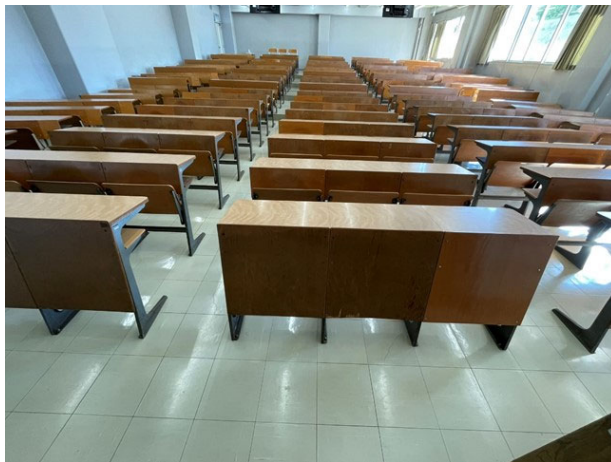
陸上競技部駅伝寮竣工

順天堂大学スポーツ健康科学部陸上競技部駅伝寮が令和6年3月28日に竣工しました。この駅伝寮の完成により、厳しい練習に励む学生アスリートを暮らしから支え、更なるチームの強化を目指し、「捲土重来」を果たします。

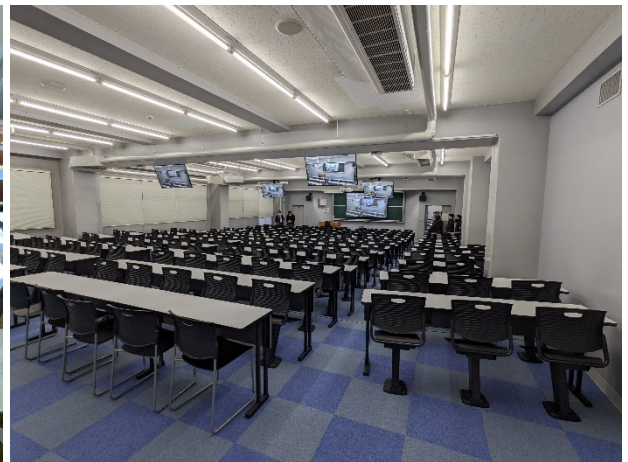


2号館 21番・22番教室改修工事

令和6年3月に2号館1階の11番・12番教室を改修しました。昭和63年のさくらキャンパス移転時に習志野キャンパスから移設して使用し続けてきた什器や旧式のAV・ICT機器を更新するとともに床材の貼替えも実施し、明るく快適な学修環境が整いました。



改修前



改修後

【浦安キャンパス】

A棟空調設備更新工事

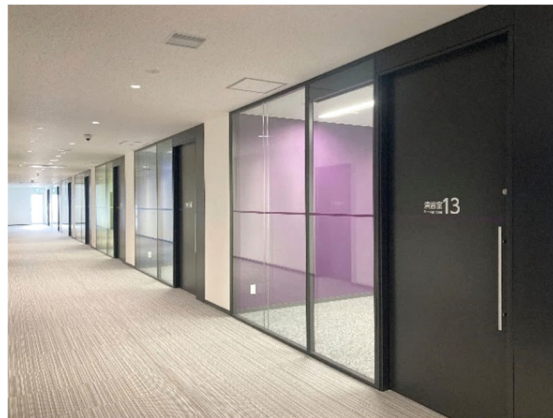
34年余り使用してきた中央熱源設備に代わり、高効率の空調設備への更新工事を実施しています。これにより良質な学修環境の提供が担保されるとともに、省エネルギー化が図られます。



【三島キャンパス】

2号館新築工事

三島キャンパス2号館が令和6年3月に竣工しました。新校舎1階には大教室（3室）、2階にはラーニングcommons、演習室（8室）、3階には屋内運動場、多目的スペースが設置され、学生の活動スペースが拡充され、講義等での幅広い活用を予定しています。



【浦安・日の出キャンパス】

Ⅱ期校舎（2号館）及びⅢ期校舎（3号館・4号館）整備

浦安・日の出キャンパスⅡ期校舎（2号館）が令和5年7月に竣工しました。2号館は健康データサイエンス学部が主に使用する校舎で、ラーニングcommonsや学術メディアセンター等、キャンパス共用施設が整備されました。屋上には太陽光発電設備を備え、エコキャンパスに取り組んでいます。またⅢ期校舎（3号館・4号館）を新築しています。令和6年4月に開設される薬学部が主に使用し、各種実習室等が整備されます。令和7年1月に竣工予定です。



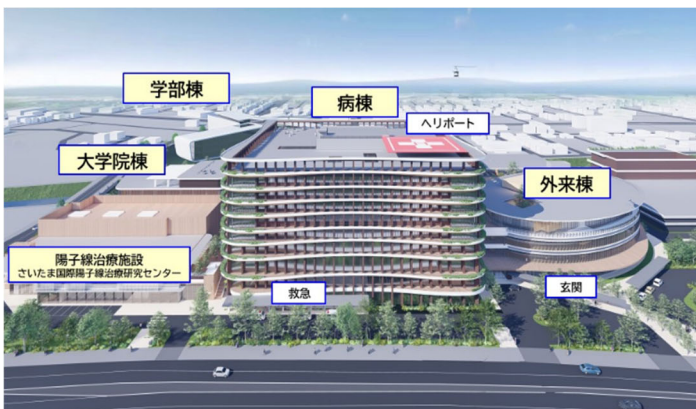
20. 大学キャンパス・ホスピタル再編事業計画について

大学キャンパス・ホスピタル再編事業計画の概要と進捗状況は以下のとおりです。

(1) 浦和美園新キャンパス（仮称）整備事業

新病院は、医療 DX を活用した未来型基幹病院の構築を基本方針として、医療環境を取り巻く重要な課題である「働き方改革」への対応や医療の質の向上と全ての利用者が満足できる魅力的な医療環境を実現させます。現在、浦和美園新病院・学部等設立準備委員会を中心に、関係各署と連携しながら、分科会、タスクフォースチームの中で、議論をして検討を進めています。

久米設計による基本設計が 2023 年 11 月に終了し、引き続き工事着工に向け病院棟、大学院棟、陽子線棟、学部棟、宿舍棟の実施設計の作業を進めています。



全景パース（正面）



浦和美園新キャンパス

(2) 旧元町小学校の整備と元町公園との一体的活用整備事業

令和 7 年 4 月 1 日の施設開設に向け、令和 6 年 3 月時点で地上 2 階までの躯体工事が順調に進んでいます。本事業は官民協働で運営し、これまで育んできた元町の歴史を継承しつつ、人々が永く健やかに暮らすための拠点として健康をテーマとした様々な事業を展開するため開設に向け準備を進めています。この施設では、多様な保育施設による子育て支援、幅広い世代の方がつながる交流スペースづくりや、新しい医療機器/技術の開発、子どもから高齢者まで楽しめるスポーツプログラムの実施、健康に配慮したカフェレストラン運営などを行い、有事の際には災害拠点としての機能を兼ね備えています。

施設名称については、令和 5 年に学内及び元町在住者へ名称募集を行った結果もっとも多くの票を獲得した「元町ウェルネスパーク」に決定いたしました。



完成時のイメージパース



正面入口の受付・ホワイエイイメージパース

21. スポーツ分野での活躍

○全国大会での活躍

【陸上競技】

陸上競技部は第 92 回日本学生陸上競技対校選手権大会で 3 年連続 31 回目の優勝を果たしました。日本タイ記録（学生新記録）をマークした 110m 障害の村竹ラシッド選手（スポーツ健康科学部 4 年）をはじめとする活躍で 2 位以下に大差をつけての 3 連覇でした。



陸上競技部 男子総合 3 連覇 31 回目

【体操競技】

体操競技部は第 77 回全日本学生体操競技選手権で 4 連覇 14 回目の優勝を果たしました。

橋本大輝選手（スポーツ健康科学部 4 年）は男子史上初の個人総合で 4 連覇を達成し、個人総合 2 位には谷田雅治選手（スポーツ健康科学部 1 年）が入り、団体 4 連覇に貢献しました。女子も過去最高の団体 2 位になりました。



体操競技部 男子総合 4 連覇 14 回目

【スカッシュ】

スカッシュ部は第 49 回全日本学生スカッシュ選手権大会団体戦で、男子・女子ともに関東インカレに続き優勝して、男子は 7 大会連続 14 回目、女子は 3 大会連続 12 回目の優勝を果たしました。



スカッシュ部 男子 7 連覇 女子 3 連覇

【バレーボール】

バレーボール部男子が全日本大学選手権大会（全日本インカレ）で 2 年ぶりに準優勝を果たし、ハンドボール部は男女ともに関東学生ハンドボールリーグ戦で 1 部昇格するなど今後が楽しい結果を残しました。



バレーボール部男子 準優勝

○パリオリンピック・パラリンピックに向けて世界の舞台で活躍

【体操競技】

世界体操競技選手権（ベルギー・アントワープ）に橋本大輝選手（セントラルスポーツ所属・スポーツ健康科学研究科博士後期課程3年）、本学OBの千葉健太選手（2019年卒・セントラルスポーツ）が男子団体総合で金メダルを獲得しました。男子個人総合では橋本大輝選手が史上4人目（日本人2人目）となる連覇を果たしました。

また女子団体総合には宮田笙子選手（スポーツ健康科学部1年）が出場し、高い演技力で日本代表8位に貢献。種目別跳馬で個人6位入賞を果たしました。



個人総合連覇の橋本大輝選手
写真提供/共同通信社



高い演技力で貢献の宮田笙子選手
写真提供/共同通信社

【陸上競技】

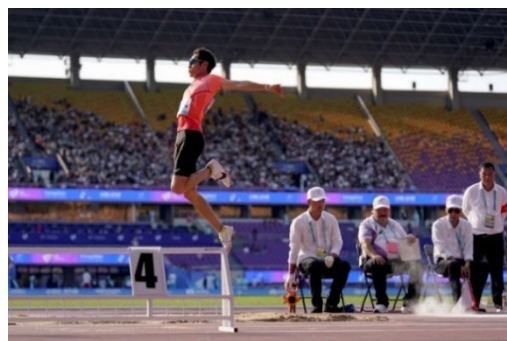
第19回世界陸上競技選手権大会（ハンガリー・ブタペスト）で、三浦龍司選手（スポーツ健康科学部4年）が男子3000m障害で日本人初の6位入賞を、本学OBの泉谷駿介選手（2022年卒・住友電気）は男子110mハードルで5位入賞を果たしました。女子20km競歩では梅野倭子選手（スポーツ健康科学部3年）が、男子5000m予選に本学OBの塩尻和也選手（2019年卒・富士通）が、それぞれ世界選手権初出場で善戦しました。



日本人初の6位入賞の三浦龍司選手
写真提供/共同通信社

【パラアスリート】

アジアパラ競技大会（中国・杭州）で荻原虎太郎選手（スポーツ健康科学部3年、セントラルスポーツ）は競泳の男子4×100mフリーレーで銀メダル獲得に貢献、男子100m背泳ぎ（運動機能障害：S8）でも銅メダルを獲得。陸上競技で石山大輝選手（大学院スポーツ健康科学研究科博士前期課程1年）は男子走幅跳び（視覚障害：T12）と男子100m（同）でそれぞれ銅メダルを獲得。山崎晃裕選手（さくらキャンパス職員）は男子やり投げ（上肢障害：F46）で日本選手トップの5位入賞を果たしました。本学の学部生・OB・職員のアスリートが、パリのオリンピック・パラリンピックを目指します。



自己記録更新の石山大輝選手

22. 高大連携の取組

本学は高等学校との連携事業を積極的に進めています。大学教員による出張講義や大学生と高校生の共同授業などの相互交流を通じて、高校生が将来を見据えた進路を選択する際に、それらの経験が一助となることを願い、様々な取組を行っています。令和5年度は17の高等学校と高大連携に関する協定を締結し、協定校は30校となりました。相互の交流を通じて高等学校の生徒たちの視野を広げ、学習意欲を高めるとともに、大学教育と高等学校教育との連携を図り、互いの教育の更なる活性化を目指しています。

【令和5年度連携協定締結校】

協定締結日	高等学校名
5月 2日	宝仙学園高等学校
5月10日	湘南白百合学園高等学校
6月19日	八千代松陰高等学校
6月30日	習志野市立習志野高等学校
7月25日	昭和女子大学附属昭和高等学校
8月 4日	静岡県立韮山高等学校
8月28日	桜蔭高等学校
9月30日	昭和学院高等学校
10月 3日	立川女子高等学校
10月 6日	藤村女子高等学校
10月30日	本郷高等学校
11月29日	茗溪学園高等学校
12月 7日	春日部共栄高等学校
1月26日	明法高等学校
3月 4日	洛星高等学校
3月 6日	広尾学園高等学校
3月29日	日本女子大学附属高等学校

【高大連携取組事例】



高校OBの教員による講義



大学の設備を使用した心肺蘇生体験



日本医学教育歴史館での学修



高校OB・OGの大学生との交流会

23. 中期的な計画の進捗・達成状況及び令和6年度事業計画策定

1. 中期的な計画の進捗・達成状況について

令和2年度から令和6年度までの事業に関する中期的な計画に対する当期の実施状況をホームページに公表しました。

(<https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/>)

2. 令和6年度事業計画について

健康総合大学としての教育・研究・臨床の更なる向上を図るために、次の事項を令和6年度事業計画として策定しました。

【教育に関する計画】

- (1) 学部の広報活動の一環として、高等学校との連携（高大連携）事業を積極的に推進するとともに、入学試験改革を継続し、外国人を含めた多様な学生の受け入れと志願者数の増加を図る。（高大連携協定校 50 校を目指す）
- (2) 健康データサイエンス学部と連携して全学で数理・データサイエンス・AI 教育に取り組み、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル、令和5年度文部科学省認定）」の更なる質の向上を図るとともに、応用基礎レベルの認定取得に向けてプログラムの拡充を図る。
- (3) 学修者本位の教育に向けて教育プログラムの点検、改善を進め、教育の質保証向上に資する教学マネジメントシステムの整備に取り組むとともに、FD・SD 研修の充実を図る。
- (4) 全学教育の推進を図る機構を設置し、全学共通教育の企画開発と実施推進を展開し、学生の主体的な学修に関する支援を行う。
- (5) 教育課程に応じ、学生の学修成果を IR（Institutional Research）データを活用して、適切に把握・評価することができる評価方法や指標を導入する。
- (6) 本年4月開学の薬学部の円滑な立ち上がりを図り、引き続き教育研究施設の整備を進める。
- (7) 個別対応によるキャリア支援・就職支援の一層の充実を進めるとともに、教職課程センターを中心に教職の順大としてのブランド力アップを目指し、教員採用試験の合格者数アップを図るための支援体制を強化する。

【研究に関する計画】

- (8) 基礎研究及び臨床研究の基盤強化・充実を図り、学内外の機関との共同研究の強化・産学連携の推進（共同研究、寄付講座・共同研究講座の設置、70 講座を目指す）を図り、科学研究費補助金等の競争的研究費獲得（令和5年度科研費実績 16.5 億円の上乗せを目指す）について、URA を中心とした研究支援を組織的に行うとともに、その成果を国内外に広く広報する。
- (9) 若手研究者の育成と女性研究者躍進のための支援の充実を図る。
- (10) 研究不正防止体制の拡充として、各部門でのコンプライアンス教育、研究倫理教育等の研究不正防止体制を拡充し、研究の国際化に対応するために、安全保障輸出管理体制の効果的な運用を組織的に行う。
- (11) 世界トップクラスの研究力の向上と研究拠点発スタートアップの創出を目指し、変革に対応しうる若手人材を育成する。
- (12) オープンイノベーション（GAUDI）を推進し、産学連携による知の拠点としてイノベーションを創出するための体制強化を図る。

【社会貢献・社会連携に関する計画】

- (13) 公開講座やプレスリリース、オウンドメディア等、多彩な媒体の特徴を活かした広報活動を通して教育研究活動の情報の発信を展開する。
- (14) 公立中学校における運動部活動の地域移行化に対応すべく地方自治体との連携を密にし、運用開始を目指す。

【国際化に関する計画】

- (15) 国際化の推進を図り、世界各国・地域からの留学生の一層の増員を推進する。その取組として、①留学生受け入れのための教育・居住環境の整備と経済的支援、②留学生や外国籍研究者に対する日本語学習支援を拡充する。
- (16) 研究者の国際交流活動を推進し、海外の研究機関等との連携協定締結に向けた諸活動を推進する。
- (17) 本学学生の国際化を図るため、各学部横断的な情報共有を行い、効果的な留学プログラムや支援制度を検討する。

【臨床に関する計画】

- (18) 病床稼働率の向上を図るとともに、医療経費をはじめとする経費の効率的使用により病院運営基盤の強化を図る。
- (19) 救急医療体制の整備と充実を推進する。
- (20) 高度先進医療の更なる充実と地域医療への貢献を軸として各附属病院の特色を活かした医療を実践する。
- (21) 海外から高度先進医療を求めて受診する患者に対し、国籍による差別なく対応を行い、患者増を図る。
- (22) 医師の働き方改革を適正に運用し、タスクシフト／シェアを進める。
- (23) 附属病院の医療情報システムから得られる臨床データの活用基盤整備を推進する。

【管理運営に関する計画】

- (24) 財の独立なくして学の独立なしをキーワードに、安定した財政基盤の確立を目指す。
- (25) 教学及び医療をはじめとする様々な業務について、DXを推進するための人材育成、データドリブンに基づいた意思決定、生成系 AI を用いて、更なる業務の最適化、効率化を図る。
- (26) 首都圏直下地震の発生を想定し、危機管理体制の更なる改善と被災時に教職員が適切な対応がとれるよう訓練に努める。
- (27) 地球環境保護のため、4R (Reduce, Reuse, Recycle, Replace) を実践するとともに、2030 年に全拠点 CO2 排出量の 2013 年比 46%削減を目指して、CO2 削減に取り組む。

【キャンパス・ホスピタル再編事業】

- (28) 埼玉浦和美園新病院開設に向けて着実に準備を進める。
- (29) 越谷病院の再編計画の検討を進める。
- (30) 旧元町小学校再編事業を計画通り進める。

24. 令和5年度事業の収支及び財務状況の概要

当期の事業収支及び財務状況について、その概況を報告します。なお金額は百万円未満を端数処理(四捨五入)して表記していますので、合計と一致しないことがあります。

(1) 資金収支計算書

(収入の部)

単位：百万円

科 目	補正後予算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	12,560	12,533	27
手数料収入	622	649	△ 27
寄付金収入	1,252	1,380	△ 128
補助金収入	9,547	9,418	129
資産売却収入	4	18	△ 15
付随事業・収益事業収入	6,572	7,400	① △ 828
医療収入	179,090	177,961	1,129
受取利息・配当金収入	166	175	△ 8
雑収入	2,523	2,918	② △ 395
借入金等収入	400	400	0
前受金収入	3,320	3,691	△ 371
その他の収入	37,112	36,719	393
資金収入調整勘定	△ 38,930	△ 36,237	△ 2,693
① 当年度資金収入合計	214,239	217,026	△ 2,787
前年度繰越支払資金	71,665	71,665	△ 0
収入の部合計	285,904	288,690	△ 2,787

① 当年度資金収入合計

予算と比較し、約28億円上回り、約2,170億円となりました。

【主な要因】

- ① 企業等からの受託事業収入や特許権等収入が増加したことにより、付随事業・収益事業収入が約8億円上回りました。
- ② 公的資金に係る間接経費や私立大学退職金財団交付金収入が増加したことにより、雑収入が約4億円上回りました。

(支出の部)

科 目	補正後予算	決 算	差 異
人件費支出	74,471	73,956	515
教育研究経費支出	32,518	32,532	△ 14
医療経費支出	83,683	84,591	△ 908
管理経費支出	6,031	6,019	12
借入金等利息支出	30	22	8
借入金等返済支出	880	880	0
施設関係支出	20,779	18,146	① 2,633
設備関係支出	9,773	8,998	② 775
資産運用支出	1,550	1,542	8
その他の支出	17,114	18,036	△ 922
予備費	1,648	0	1,648
資金支出調整勘定	△ 13,367	△ 15,761	2,395
② 当年度資金支出合計	235,109	228,961	6,148
次年度繰越支払資金	50,794	59,729	△ 8,935
支出の部合計	285,904	288,690	△ 2,787

② 当年度資金支出合計

予算と比較し、約61億円下回り、約2,290億円となりました。

【主な要因】

- ①② 施設工事の実施・医療機器の購入などの設備投資が翌年度以降に繰り延べになったため、施設関係支出が約26億円、設備関係支出が約8億円下回りました。

③ 当年度資金収支差額

予算と比較し、約90億円上回り、約△119億円となりました。

③ 当年度資金収支差額	△ 20,871	△ 11,936	△ 8,935
-------------	----------	----------	---------

(2) 事業活動収支計算書

単位：百万円

教育活動収支	事業活動収入の部	科 目	R05年度決算	R04年度決算	差 異
		学生生徒等納付金	12,533	11,714	① 819
		手数料	649	575	74
		寄付金	1,370	1,503	△ 133
		経常費等補助金	8,640	13,995	△ 5,354
		付随事業収入	7,400	7,010	390
		医療収入	177,961	170,637	② 7,325
		雑収入	2,929	3,537	△ 608
	① 教育活動収入 計		211,483	208,971	2,512
	事業活動支出の部	人件費	74,865	72,266	① 2,600
(退職給与引当金繰入額)		(3,140)	(3,220)	(△ 80)	
教育研究経費		48,945	47,679	1,265	
(減価償却額)		(16,412)	(15,558)	(854)	
医療経費		84,382	77,448	② 6,935	
管理経費		6,746	6,541	205	
(減価償却額)		(779)	(800)	(△ 21)	
徴収不能額等		62	129	△ 67	
② 教育活動支出 計		215,001	204,063	10,938	
教育活動収支差額		△ 3,518	4,909	△ 8,427	
教育活動外収支	収入事業の活動部	受取利息・配当金	150	126	23
		その他の教育活動外収入	0	4	△ 4
		教育活動外収入 計	150	130	20
	支出事業の活動部	借入金等利息	22	11	11
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出 計	22	11	11
教育活動外収支差額		127	118	9	
③ 経常収支差額		△ 3,390	5,027	△ 8,418	
特別収支	収入事業の活動部	資産売却差額	0	0	△ 0
		その他の特別収入	1,014	668	346
		特別収入 計	1,014	668	346
	支出事業の活動部	資産処分差額	63	39	24
		その他の特別支出	51	41	10
		特別支出 計	114	80	34
特別収支差額		900	588	312	
予備費		0	0	0	
④ 基本金組入前当年度収支差額		△ 2,491	5,615	△ 8,106	
基本金組入額合計		△ 25,369	△ 17,501	△ 7,868	
当年度収支差額		△ 27,859	△ 11,886	△ 15,973	
前年度繰越収支差額		△ 122,609	△ 110,723	△ 11,886	
基 本 金 取 崩 額		0	0	0	
翌年度繰越収支差額		△ 150,469	△ 122,609	△ 27,859	
(参考)					
事業活動収入 計		212,647	209,769	2,878	
事業活動支出 計		215,137	204,154	10,984	

① 教育活動収入

前年度と比較し、約 25 億円増加し、約 2,115 億円となりました。

【主な要因】

- ① 新学部の開設や学生定員の増加により、学生生徒等納付金が約 8 億円増加しました。
- ② 高度先進医療を推進したことにより、医療収入が約 73 億円増加しました。

② 教育活動支出

前年度と比較し、約 109 億円増加し、約 2,150 億円となりました。

【主な要因】

- ① 診療体制を更に充実させるため医療スタッフを増員したことなどにより、人件費が約 26 億円増加しました。
- ② 医療収入の増加に伴い薬品費や診療材料費が増加したことにより、医療経費が約 69 億円増加しました。

③ 経常収支差額

教育活動支出が教育活動収入以上に増加したことにより、前年度対比で約 84 億円減少し、約△34 億円となりました。

④ 基本金組入前当年度収支差額

経常収支差額が減少したため、前年度対比で約 81 億円減少し、約△25 億円となりました。

(3) 貸借対照表

(資産の部)

単位：百万円

科 目	R05年度決算	R04年度決算	増 減
固 定 資 産	258,565	248,171	10,395
有形固定資産	234,307	224,584	9,722
土地	60,483	59,822	661
建物	124,419	120,372	4,047
その他の有形固定資産	49,405	44,390	5,015
特定資産	13,998	13,643	355
その他の固定資産	10,261	9,943	317
流 動 資 産	95,396	109,493	△14,097
現金預金	59,729	71,665	① △11,936
その他の流動資産	35,666	37,828	△2,162
資 産 の 部 合 計 ①	353,961	357,664	△3,703

① 資産の部合計

前年度対比で約37億円減少し、約3,540億円となりました。

【主な要因】

- ① 浦安・日の出キャンパスや三島キャンパスでの新講義棟の建設、静岡病院のH棟Ⅱ期工事など各施設での再編事業の進行や教育・研究・臨床用機器の取得、医療情報システムの更新等により支払いが増えたため、流動資産のうち現金預金が約119億円減少しました。

(負債の部)

科 目	R05年度決算	R04年度決算	増 減
固 定 負 債	44,655	46,976	△2,321
長期借入金	9,555	12,000	△2,445
学校債	3,440	3,800	△360
その他の固定負債	31,660	31,176	484
流 動 負 債	27,179	26,069	1,109
短期借入金	2,445	0	2,445
短期学校債	550	670	△120
その他の流動負債	24,184	25,399	① △1,215
負 債 の 部 合 計 ②	71,834	73,046	△1,212

② 負債の部合計

前年度対比で約12億円減少し、約718億円となりました。

【主な要因】

- ① 教育研究経費や施設・設備関係支出の支払いで期をまたぐものが減少したことにより、流動負債のうち、その他の流動負債が約12億円減少しました。

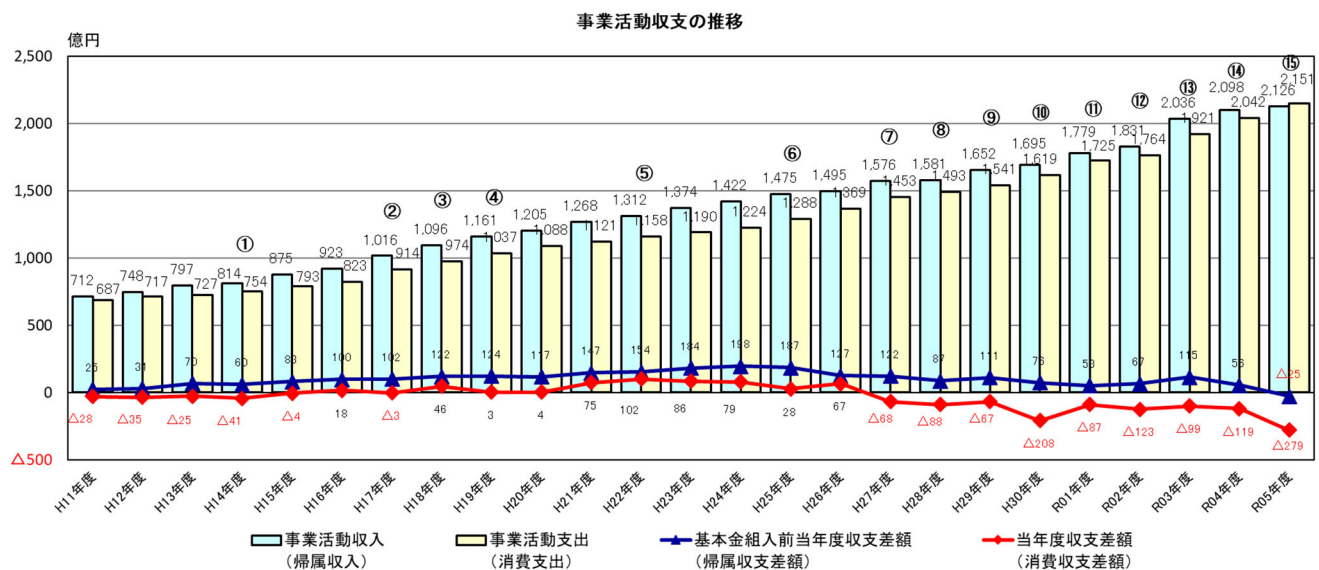
(純資産の部)

科 目	R05年度決算	R04年度決算	増 減
基本金	432,596	407,227	25,369
第1号基本金	416,891	392,313	24,578
第2号基本金	368	483	△115
第3号基本金	0	0	0
第4号基本金	15,337	14,431	906
繰越収支差額	△150,469	△122,609	△27,859
翌年度繰越収支差額	△150,469	△122,609	△27,859
純資産の部合計 ③	282,127	284,618	△2,491
負債及び純資産の部合計	353,961	357,664	△3,703

③ 純資産の部合計

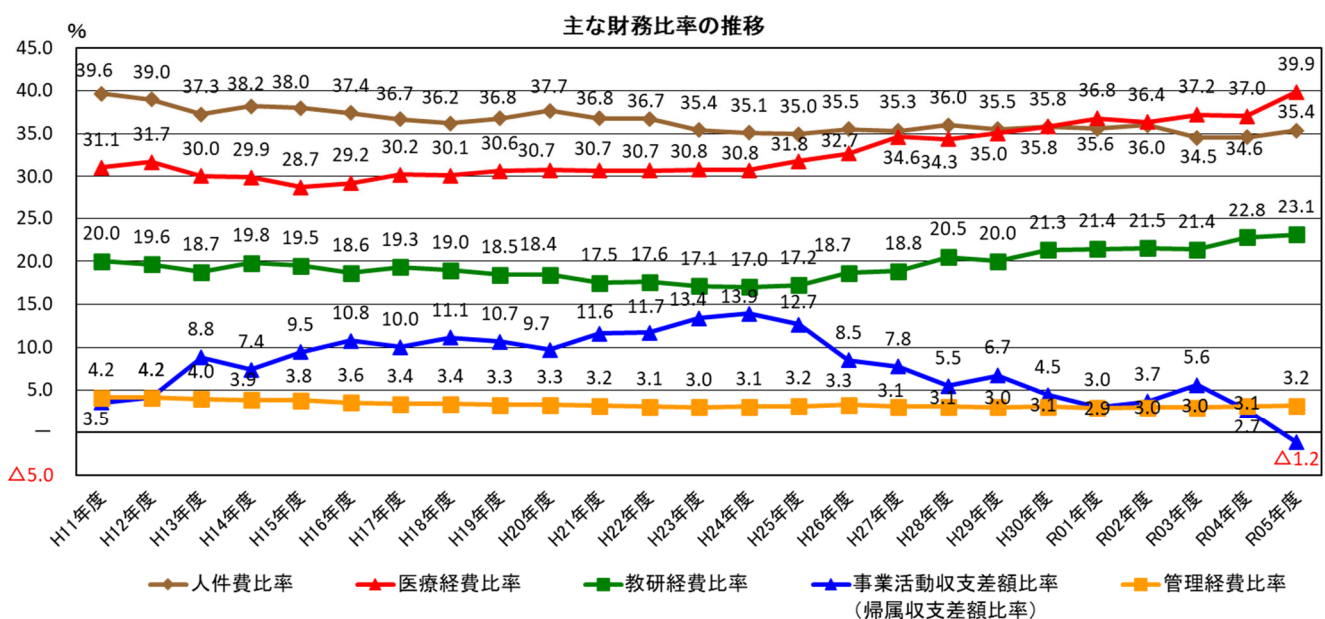
事業活動収支計算書の基本金組入前当年度収支差額が約△25億円となったことにより、約2,821億円となりました。

26. 財務状況の推移



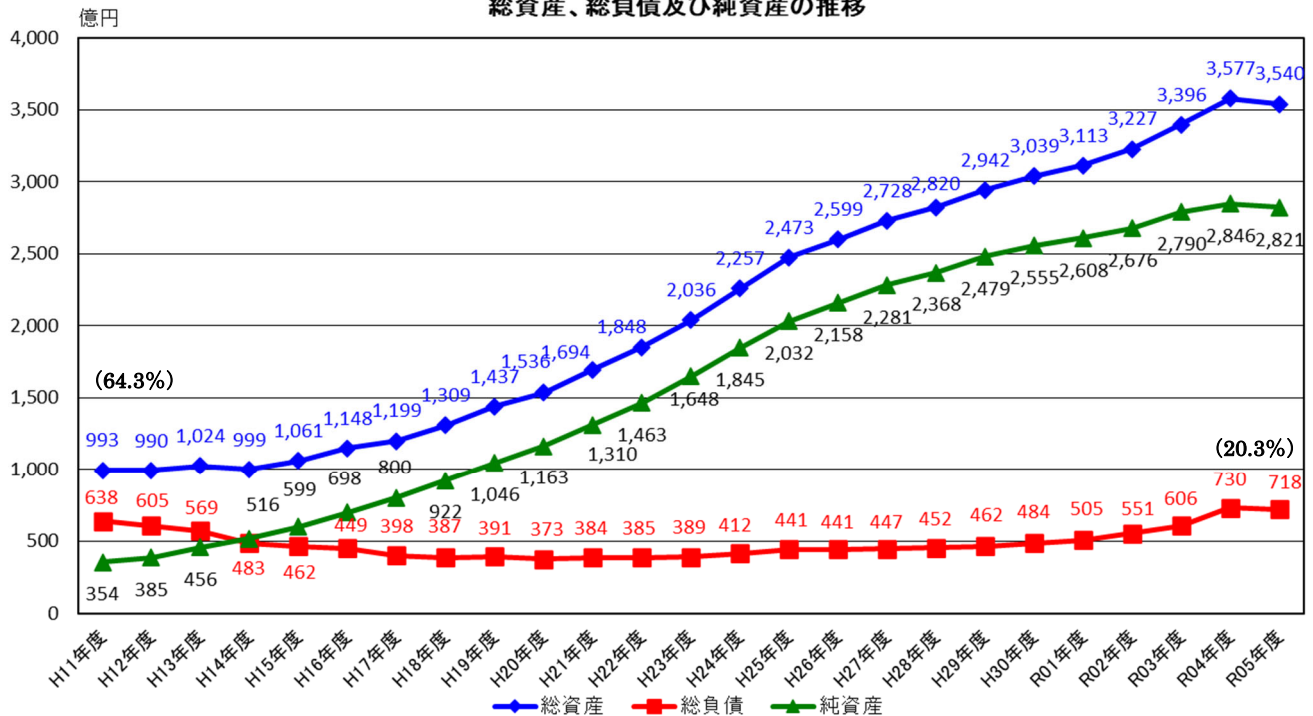
教育・研究・診療の充実を図るため、以下の事業を実施してきました。

①平成 14 年度 順天堂東京江東高齢者医療センター開院 ②平成 17 年度 練馬病院開院 ③平成 18 年度 静岡病院増床、スポーツ健康医科学研究所竣工 ④平成 19 年度 スポーツロジセンター設立 ⑤平成 22 年度 保健看護学部開設 ⑥平成 25 年度 順天堂医院 B 棟Ⅰ期竣工 ⑦平成 27 年度 国際教養学部開設 ⑧平成 28 年度 順天堂医院 B 棟Ⅱ期・C 棟竣工、さくらキャンパス新体操競技場・新女子寮竣工、高齢者医療センター増床 ⑨平成 29 年度 浦安病院 3 号館竣工 ⑩平成 30 年度 新研究棟 (7 号館) 竣工 ⑪令和元年度 保健医療学部開設、練馬病院 3 号館竣工 ⑫令和 2 年度 新研究棟 (7 号館)Ⅱ期竣工、さくらキャンパス新講義棟・新女子寮竣工 ⑬令和 3 年度 浦安・日の出キャンパス 1 号館及び体育館竣工 ⑭令和 4 年度 医療科学部開設 ⑮令和 5 年度 健康データサイエンス学部開設、浦安・日の出キャンパス 2 号館竣工、さくらキャンパス第 3 体育館 (小川スーパーアリーナ) 竣工、三島キャンパス新講義棟竣工



平成 27 年度に学校法人会計基準が改正されたため、事業活動収支差額比率を除く各比率の分母は、26 年度以前が帰属収入 (新基準の事業活動収入)、27 年度以降は経常収入となっています。令和 5 年度は医療経費、教研経費が増加したため、それぞれ比率が上昇し、事業活動収支差額比率は低下しています。

総資産、総負債及び純資産の推移

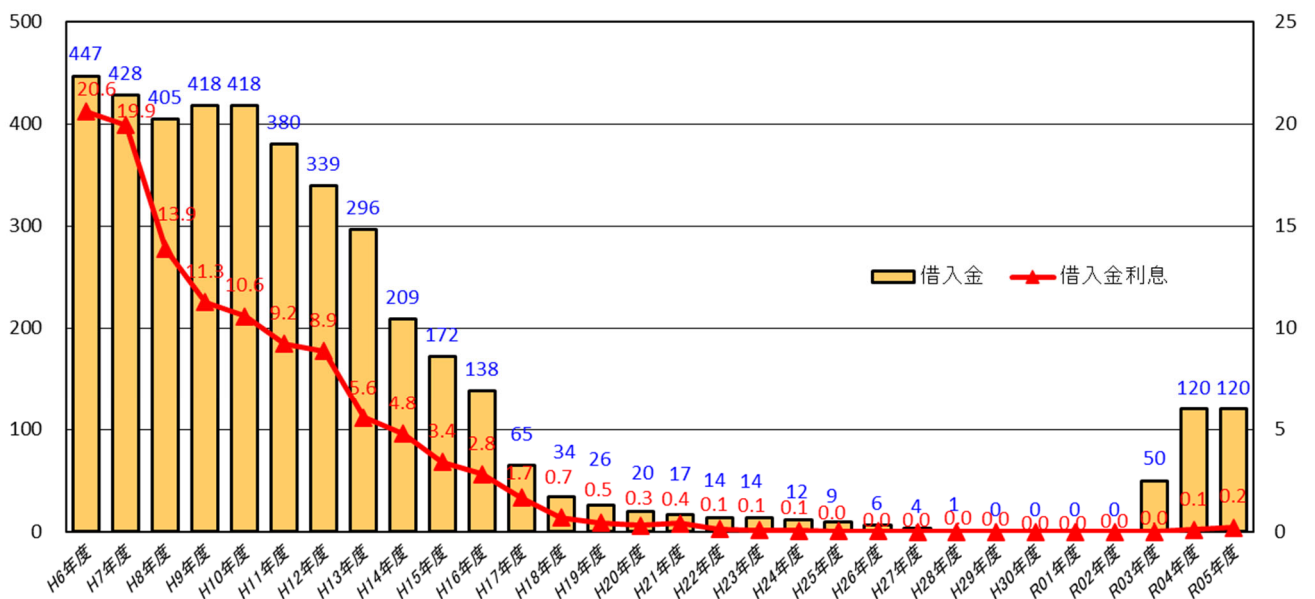


平成5年に竣工した順天堂医院1号館建設資金の大半を借入金で賄ったため、平成13年度までは総負債が純資産を上回っていました。その後は有利子負債の返済を前倒しで行いつつ、施設・設備の拡充を自己資金で行いながらも、堅調な事業活動収支差額（帰属収支差額）を維持してきました。この結果、総負債比率（総負債／総資産）は平成11年度の64.3%から令和5年度には20.3%と、大幅に改善しています。

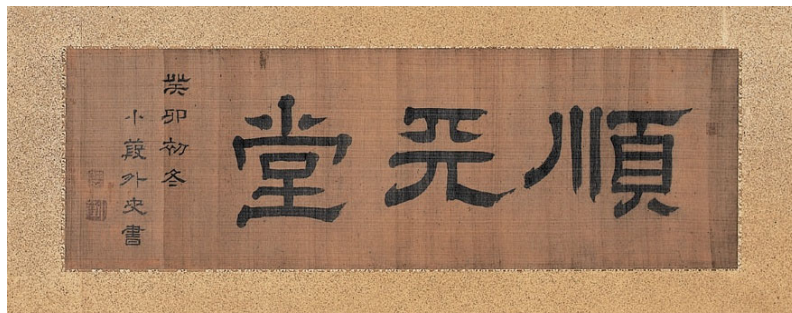
借入金残高
単位: 億円

金融機関等借入金及び同借入金利息の推移

借入金利息
単位: 億円



総負債比率改善のため借入金の返済を積極的に進めてきました。令和3年度及び令和4年度は新学部設置に係る文部科学省の基準に合致させるため、金融機関から借入れを行なっています。



Juntendo, Tokyo, Established 1838